



国立市富士見台地域 まちづくりビジョン

「人が主役、多彩な暮らしが重奏するまち 富士見台」
《コミュニティインフラの創造・展開へ》

～誰もが 活き活きと交流し、互いに支え合い、彩り豊かな暮らしを安心・安全・快楽に楽しみつけられるまち～

2018（平成30）年 2月

国立市



国立市長

永見 理夫

2017(平成 29)年 1 月 1 日、国立市は、市制施行 50 周年を迎えました。

先人たちが築き上げてこられた、この 50 年の歴史を振り返るとき、国立富士見台団地を抜きに、市の発展は語れません。1965(昭和 40)年秋に完成した国立富士見台団地は爆発的な人口増を生み、市制施行のきっかけとなりました。

時を経て、市制を支えてきたこの国立富士見台団地を中心とした富士見台地域は、高齢化が進展しており、市の中核となるまちとして、その活力をあらためて創出していく時期に来ています。

「人間を大切にする」という市のまちづくりの基本理念に基づき、現在お住まいの方々の居住の安定を大切にしながら、積極的に若者・子育て世代を呼び込み、「人が主役、多彩な暮らしが重奏するまち 富士見台《コミュニティインフラの創造・展開へ》～誰もが、生き活きと交流し、互いに支え合い、彩り豊かな暮らしを安心・安全・快適に楽しみつづけられるまち～」の実現を目指し、積極的に取り組んでまいります。そして、本市の次の 50 年を見据え、他の地域にとってもモデルとなるような先進的なまちづくりを進めてまいります。

－ ビジョンの策定経緯 －

市は、都営矢川北アパート建替え事業に伴う公共機能の検討及び富士見台地域全体のまちづくりの方向性について検討するため、2014(平成26)年度に「国立市富士見台地域まちづくり庁内検討会」を設置しました。

また、2015(平成27)年度には、富士見台地域のまちづくりに対する機運醸成のため、国立富士見台団地・創立50周年行事と関連づけ『富士見台地域まちづくり勉強会「まち歩き散歩」』を開催し、これからのまちづくりで大切にしたいことを市民の皆さまと意見交換しました。

以上の成果を踏まえ、市は2016(平成28)年度に、たたき台としてビジョン(案)を作成し、2017(平成29)年度には、多くの市民の皆さまからビジョン(案)に対するご意見をいただくために、「国立市富士見台地域まちづくりビジョン(案)に関する懇談会～富士見台地域の魅力を共有し、まちの将来を考えよう!～」を開催しました。本ビジョンは、その成果を踏まえ、策定されました。



懇談会の様子

－ ビジョンの特徴 －

富士見台地域の魅力を共有するためのビジョン

富士見台地域は、様々な祭りや催しを行う豊かな地域のコミュニティの存在、緑豊かな住環境や街路樹が配された幹線道路など、地域の個性を感じられる印象的な景観、共同住宅の建設などによる家族世帯の増加、駅前の個性ある商店街、子どもが遊べる多くの公園の存在など、住宅市街地として多くの魅力を有しています。

しかし、現在は、こうした魅力資源を住民やまちづくりに関わる関係者が十分に共有している状況とは言えないと考えています。

そこで、本ビジョンでは、まちづくりの方向性を示すだけでなく、富士見台地域の魅力とは何かを整理し、関係者が共有するためのいわば、まちの魅力のガイドとしても活用されることをねらいとしています。

「課題発見・解決型」だけでなく「魅力発見・創造型」のビジョン

まちづくりの方向性を示すビジョンとして、まちの課題に着目し、その解決を目指す、いわば「課題発見・解決型」の構成が一般的です。

本ビジョンは、富士見台地域に既にある魅力を活かしながら、さらに伸ばす中で、課題の解決も同時に図っていく、いわば「魅力発見・創造型」の構成としています。

国立市富士見台地域まちづくりビジョン

【目次】

1章. ビジョン策定の趣旨等

- (1) ビジョン策定の背景 1
- (2) ビジョンの性格等 2

2章. 富士見台地域の現状

- (1) 地域コミュニティ等の現状 5
- (2) 都市計画等の現状 7
- (3) 公共施設・公益施設の現状 10

3章. 富士見台地域の魅力

- (1) 「街」の魅力 12
- (2) 「コミュニティ」の魅力 13
- (3) 「暮らし」の魅力 16
- (4) 魅力を活かしながら、
さらに伸ばすための3つの視点 17

4章. まちの将来像とまちづくりの方針

- (1) まちの将来像 18
- (2) まちづくりの方針 19

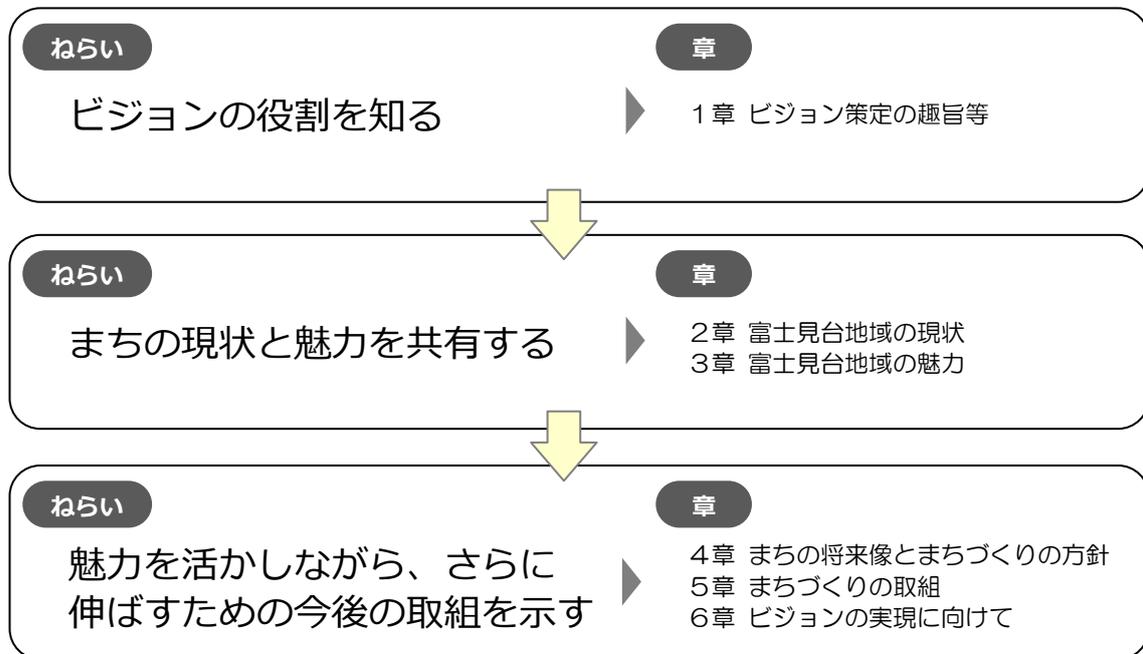
5章. まちづくりの取組

..... 21

6章. ビジョンの実現に向けて

..... 27

ビジョンの構成～ねらいと各章の関係について～



【資料編】

1. 国立市富士見台地域まちづくり庁内検討会設置要綱 31
2. 国立市富士見台地域まちづくり勉強会「まち歩き散歩」開催報告 33
3. 国立市富士見台地域まちづくりビジョン（案）に関する懇談会
～富士見台地域の魅力を共有し、まちの将来を考えよう！～開催報告 35
4. 「国立市富士見台地域まちづくりビジョン(案)」に対する
パブリックコメント実施報告 49

1章. ビジョン策定の趣旨等

(1) ビジョン策定の背景

▶市の中央に位置する良好な住宅市街地の魅力ある暮らしの継承の必要性

富士見台地域は、市のほぼ中央に位置する良好な住宅市街地として、現在も魅力的な住環境を有しています。また、国立駅の開業に伴いにぎわいと良好な景観、教育環境が形成された国立駅周辺エリア（北地域及び東・中・西地域）と農の風景や多摩川、崖線、湧水などがあり、今もなお自然や歴史文化を感じられる矢川・谷保エリア（南部地域）という特色あるエリアに囲まれており、両地域の環境を享受できる立地特性も魅力といえます。

超高齢社会・人口減少社会の到来を迎え、特に住宅市街地として発展してきた富士見台地域は、これまで暮らしを支えてきたコミュニティの活力をさらに高めていくことが求められています。魅力ある暮らしを次世代に継承するために、まちづくりの方向性を今一度考える時期にきています。

▶公共施設等の再編のあり方の検討の必要性

富士見台地域は、東西の一部を除き、旧日本住宅公団（現在の独立行政法人都市再生機構）が国立富士見台団地を建設するにあたり、昭和 30 年代後半に区画整理による基盤整備を行った地域であり、市役所のほか多くの公共施設や教育・文化施設が集積しています。

それら公共施設等は、建造物の経年変化が進んでおり、地域の魅力ある暮らしの継承に向けて、公共機能の再配置・機能強化という観点からも、その再編のあり方を検討する時期にきています。

▶今あるまちの魅力資源を活かしたまちづくりの国立モデルの推進に向けて

本ビジョンは、魅力ある暮らしの継承に向けたコミュニティがより活発に活動するための環境づくりや公共施設等の再編を検討する時期にきていることを、多くの魅力資源を最大限に活かしたまちづくりを検討する機会と捉え、中長期的視点で、今後の富士見台地域のまちづくりの方向性を示すことを目的として策定しました。

超高齢社会・人口減少社会においては、経年変化が進む住宅の対策や公共施設等の再編、地域包括ケアの確立など、地域で暮らし続けるために取り組むべき課題が多くあります。

富士見台地域は、市の中核となるまちであることから、こうした課題の解決に向けた取組が、本地域のみならず、他地域の暮らしの向上にもつながり、大きな波及効果が期待できます。

そして、超高齢社会・人口減少社会におけるまちづくり、国立市におけるまちづくりをけん引する先行モデルを示すことにもつながります。

(2) ビジョンの性格等

▶ビジョンの役割

富士見台地域の魅力や今後想定される課題を踏まえながら、本地域のまちづくりの方向性を示すものです。

このビジョンの内容を地域住民、地域団体、事業者等、まちづくりに関わる関係者と共有することで、それぞれの役割を踏まえながら、市との協働・連携によりまちづくりの実現を目指したいと考えています。

本ビジョンについては、そのための羅針盤となる役割を期待しています。

▶ビジョンの上位・関連計画等

本ビジョンは、第5期基本構想や都市計画マスタープランなどにに基づき策定しました。

図表：上位・関連計画等における富士見台地域の位置づけ等

上位・関連計画名、策定年	富士見台地域の位置づけ等（抜粋）
国立市総合基本計画 第5期基本構想 第1次基本計画 2016(平成28)年度	40年前に策定された第一期基本構想から一貫して「人間を大切にする」をまちづくりの基本理念としている。富士見台地域については、まちの中核となるベルト地帯として再度活性化していくことを期間中の重要課題と位置づけ、この地域の活性化を市全体の活力創出へとつなげる。国立富士見台団地・都営矢川北アパートの再生を中心に、若者や子育て世代を呼び込むと同時に、高齢者が安心して暮らせる、多世代が集い支え合うまちを目指し、他の地域にとってもモデルとなるような先進的なまちづくりを進めるとしている。
国立市都市計画マスタープラン 2018(平成30)年度 策定予定	関係機関との連携・協働のもと、大規模住宅団地の再生や公共施設の再編、谷保駅及び矢川駅周辺の商業地の活性化等の取組を複合的に推進し、より多くの若者・子育て世代を地域内に呼び込むとともに、高齢者がいつまでも安心して暮らすことができ、多世代がバランスよく集い、支え合うまちを目指す。
国立市まちづくり条例 2016(平成28)年度	国立市都市計画マスタープランにおけるまちづくりの将来像の実現に寄与することを目的に、まちづくりにおける市民参加の仕組みや開発事業の手続き及び基準を定めている。 まちづくりは、地域の特性に合わせた土地の利用を図り、歴史的に育まれてきたまちなみと環境を守り育て、後世に引き継いでいくことを基本として取り組まなければならないという理念としている。

上位・関連計画名、策定年	富士見台地域の位置づけ等（抜粋）
国立市公共施設等総合管理計画 2016(平成 28)年度	<p>高度経済成長期に一齐に整備した公共施設が、今後一齐に老朽化してくる中で、今ある公共施設を今の規模で維持・更新しようとする、費用が大幅に不足することが分かっている。これら問題に対する取り組み方針や数値目標等を定める。この計画の中では、公共施設等マネジメント基本方針として、「①市民ニーズを捉えた魅力的な施設」「②規模・配置の適正化」「③効果的・効率的な管理運営」を掲げている。</p>
国立市南部地域整備基本計画 2014 (平成 26)年度	<p>南部地域整備基本計画で示す南部地域の範囲は、南武線以南の地域に南武線以北の富士見台一丁目の一部及び富士見台四丁目の矢川上土地区画整理区域周辺を加えた約 400ha の範囲としている。</p> <p>「緑豊かで良好な住環境を守り、地域をつなぐ国立の要となるまち」を富士見台地域の将来像として掲げ、1. 総合的な土地利用の誘導、2. 都市基盤の整備、3. 良好な住環境の整備の 3 つの柱を主な施策として取り組んでいる。</p>
矢川公共用地(都有地)の活用計画素案 2014(平成 26)年度	<p>矢川地域だけで考えるのではなく、富士見台地域全体を面として捉えて検討することにした。それぞれの課題により、矢川公共用地(都有地)で取り組むべきもの、矢川地域で取り組むべきもの、富士見台地域全体で取り組むべきものに分けて考えることにしている。</p> <p>富士見台地域全体として「地域包括ケアシステム」の構築を目指していく。</p>
国立市緑の基本計画 2002(平成 14)年度	<p>国立富士見台団地内に生育する既存樹木の保全を関係機関に要請する。</p> <p>国立富士見台団地建替えの際には、コナラなどの雑木林を構成する樹種を植栽し、自然環境を復元することに加え、雨水を活用した水辺の形成により、多様な生物生息環境の創出を推進する。</p> <p>国立富士見台第三団地内に残る立川崖線樹林地は、自然空間としての活用に加え、多様な生物の生息、生育空間とするために、都市緑地として整備する。</p>

▶ビジョンの対象地区

都市計画マスタープランに位置付けられた「富士見台地域（128.2ha）」を対象とします。

図表：ビジョンの対象地区



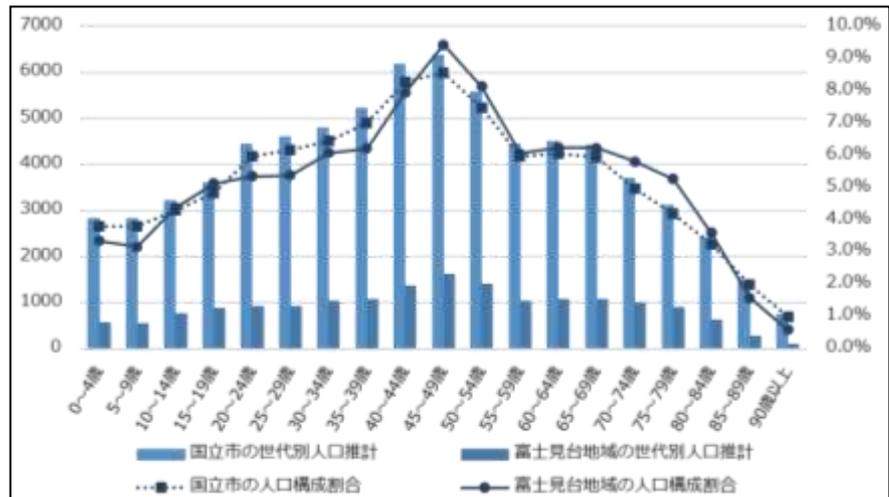
2章. 富士見台地域の現状

(1) 地域コミュニティ等の現状

▶人口

市全体、富士見台地域ともに、45～49歳の世代が最も多くなっています。ただし、富士見台地域は、市全体と比べて45歳以上の割合が高く、45歳未満の割合が低くなっています。市全体と比べて、富士見台地域の高齢化がより進んでいると言えます。

図表：世代別人口推計と人口構成の割合

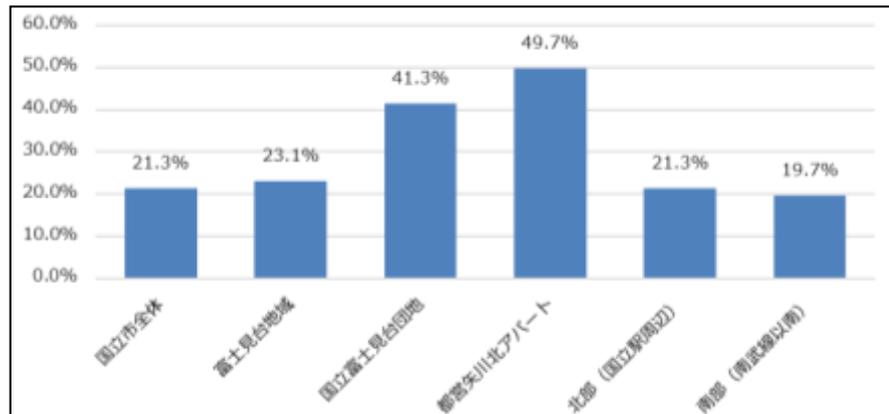


【資料】国立市住民基本台帳（2014(平成26)年8月時点）

▶高齢化率

富士見台地域の高齢化率は、市全体や市北部・市南部と比べて、やや高い割合を示しています。国立富士見台団地と都営矢川北アパートの高齢化率は、その中でも特に高い割合を示しています。

図表：高齢化率



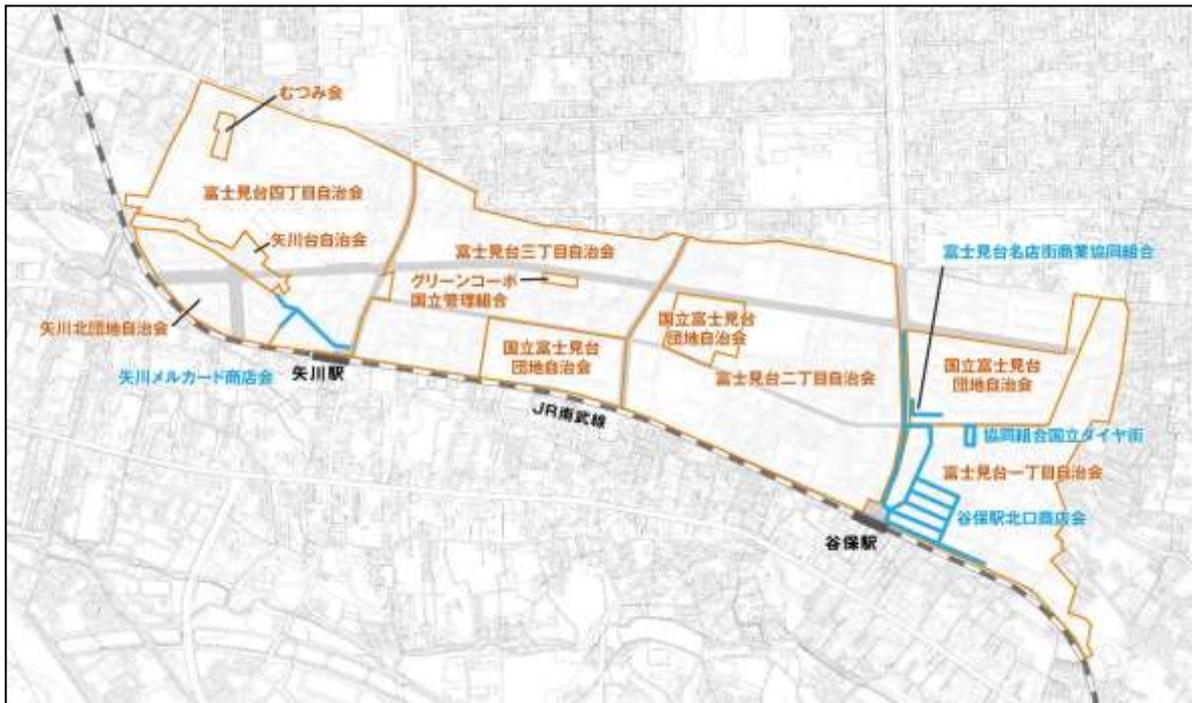
【資料】国立市全体、富士見台地域、市北部、市南部は、2014(平成26)年8月時点
 国立富士見台団地は、2014(平成26)年1月時点
 都営矢川北アパートは、2011(平成23)年1月時点
 2015(平成27)年度時点での富士見台地域の人口に対する国立富士見台団地の人口割合は約20%、都営矢川北アパートの人口割合は約5%となっている。

▶自治会・商店会・NPO団体

富士見台地域には、2016(平成28)年度国立市自治会名簿に記載された自治会が11団体ある他、商店会が4団体あります。また、NPO団体(特定非営利活動法人)は、15団体^(※)あります。また、災害時には、地域の防災活動や市民相互の助け合いの中心となる自主防災組織が6組織あります。

(※) 内閣府NPOホームページより「主たる事務所の所在地」を国立市富士見台に置く団体

図表：主な自治会、商店会の分布



▶商店街

現在、全国的に消費者の購入先の選択肢が格段に拡大するとともに、店主の高齢化や商店会の組織力の低下等により、既存の商店街は厳しい経営環境に置かれています。一方、商業機能に加え、地域コミュニティの維持・再生や高齢者の買い物支援など様々な地域課題に対応するための受け皿として、商店街に対する期待は高まっています。

富士見台地域における商店街についても、後継者不足による店舗の廃業や空き店舗化の抑止等、全国の商店街と同様、厳しい課題はあるものの、店主と買い物客の顔の見える関係が築かれた昔ながらの商店もいまだ営業しているほか、若い世代によるあらたな出店や空き店舗の活用、大学と連携したイベント等、活性化に向けた新たな取組も徐々に盛り上がりを見せています。

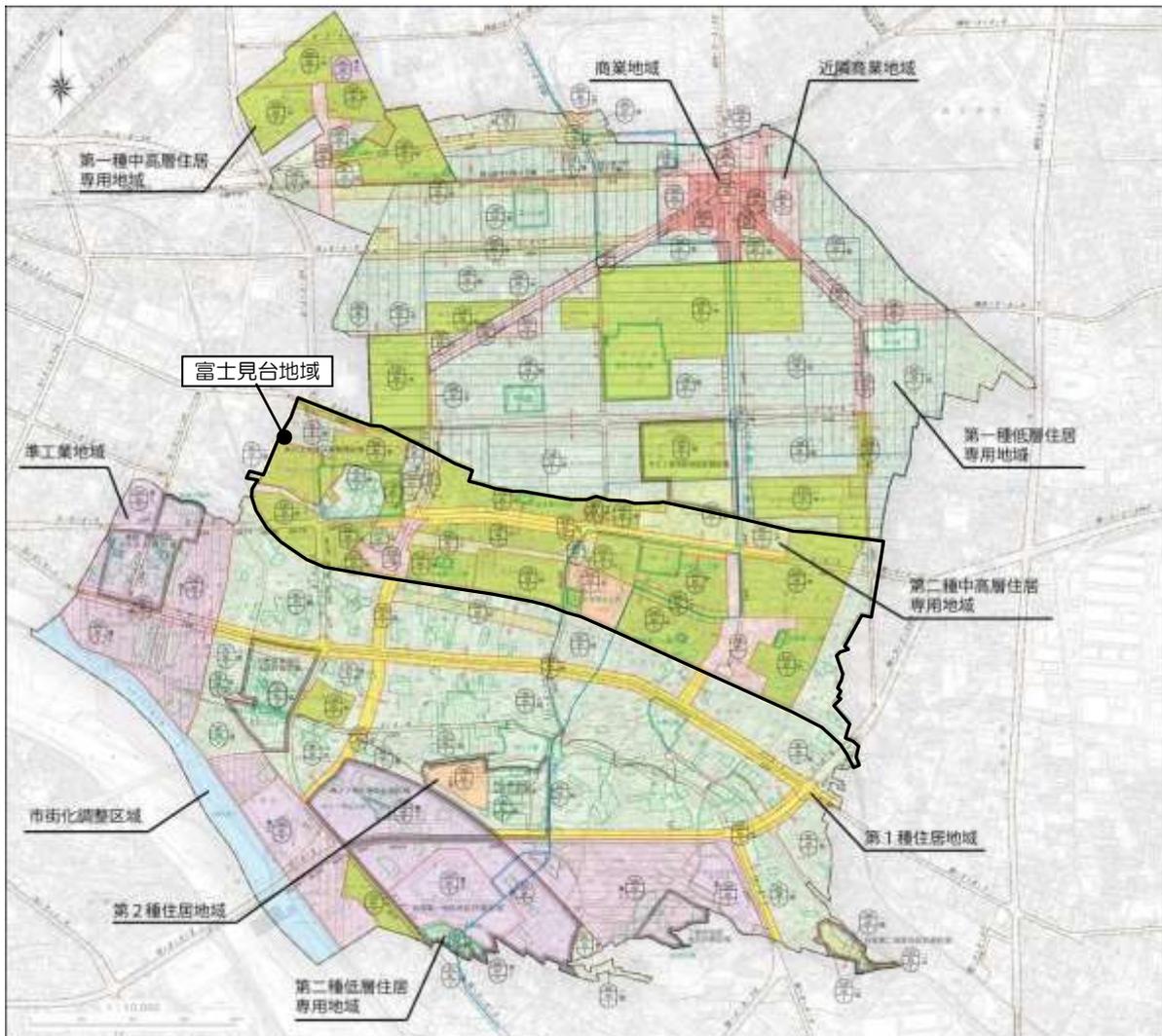
今後も、こうした新たな取組の萌芽を商店街の活性化につなげていくことが必要です。

(2) 都市計画等の現状

▶ 地域地区

JR 南武線・谷保駅及び矢川駅周辺が、近隣商業地域に指定されているほかは、地区の多くのエリアが住居系地域に指定されています。住居系地域のうち、都市計画道路沿道や市役所周辺など一部のエリアは、住居地域（第一種住居地域、第二種住居地域）に指定されており、一定規模の商業・業務用途の建築が可能な地域となっていますが、その他のエリアは、住居専用地域（第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種低層住居専用地域）に指定されています（1992(平成4)年都市計画法の一部改正により、第二種住居専用地域は、第一種中高層住居専用地域と第二種中高層住居専用地域に改正され、用途規制が変更されました。）。今後、公共施設や民間建築物の更新が活発化することが想定されます。

図表：用途地域等の指定状況



【出典】 国立市都市計画図(2017(平成29)年3月)

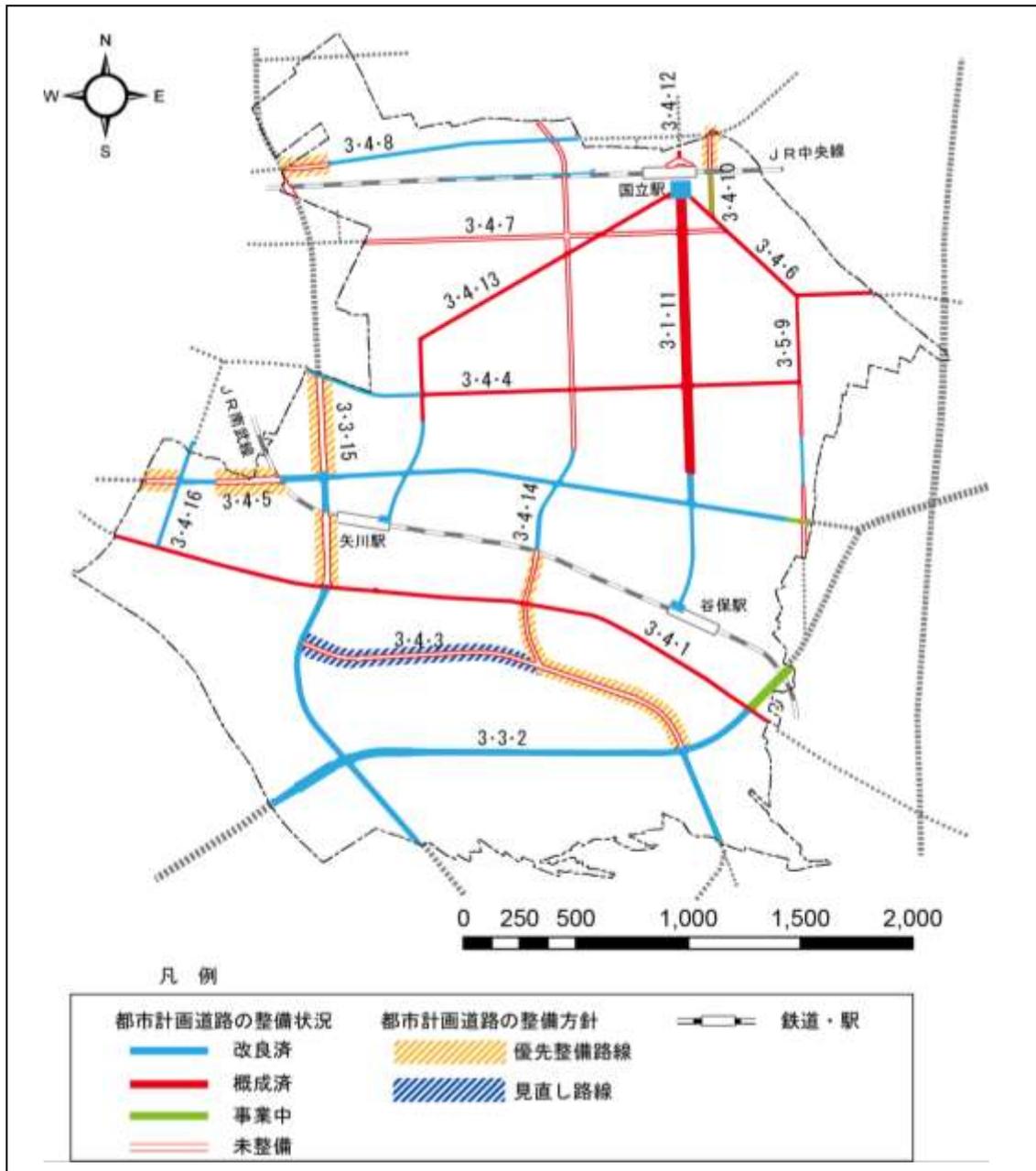
▶都市計画道路

2016(平成28)年に策定された「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」において、優先整備路線が選定されています。富士見台地域については、国立3・3・2号線(都施行・事業中)、国立3・4・5号線(都施行・事業中)、国立3・3・15号線(市施行)が優先整備路線となっています。

これらの都市計画道路については、都市間交通の円滑化や防災機能の向上を図るため、未整備区間の段階的な整備をすすめていく必要があります。また、将来の交通量の変化に伴い歩行者・自転車及び周辺環境に配慮する必要があります。

なお、都市計画道路の沿道については、事業の進捗に合わせて、地域特性に応じた用途地域等の適切な見直しを図っていきます。

図表：道路体系の整備方針図



【資料】国立市都市計画課

▶地域の開発等の動向

①団地再生の動向

「独立行政法人整理合理化計画（2007(平成 19)年 12 月 24 日閣議決定）」を受けて、独立行政法人都市再生機構は、UR賃貸住宅ストックを国民共有の貴重な財産として再生・再編するための2018(平成 30)年度までの方向性を定めるものとして「UR賃貸住宅ストック再生・再編方針」を2007(平成 19)年 12 月 26 日に策定しました。

同方針の中で、国立富士見台団地は、「個別団地類型（案）一覧」の中で「団地再生」に位置付けられています。

国立富士見台団地は、建設から経年変化が進み、居住者の高齢化率も非常に高くなっています。今後、団地再生について関係者が積極的に検討する時期にきていると言えます。

また、東京都により、都営矢川北アパートの建替え事業が2013(平成 25)年から進められ、現在、西敷地の一部を事業範囲とする第一期工事が終了しています。今後、東敷地、北敷地の順で事業が進められます。

②地域の開発動向

過去 15 年間(2001～2015（平成 13～27）年度）に国立市開発行為等指導要綱に基づく申請のあった集合住宅等の中高層建築物の件数(住戸数)は、下表の通りとなっています。

2001～2005(平成 13～17)年度の5年間で 24 件(595 戸)で、2006～2010(平成 18～22)年度の5年間で 9 件(253 戸)と一旦減少しましたが、2011～2015(平成 23～27)年度の直近 5 年間は 14 件(824 戸)と増加に転じており、新たな世帯の流入がみられます。

図表：過去 15 年間の国立市開発行為等指導要綱に基づく申請件数
(富士見台地域/集合住宅)

	2001～2005 (H 13～17)年度	2006～2010 (H 18～22)年度	2011～2015 (H 23～27)年度
富士見台一丁目	4 件(97 戸)	4 件(97 戸)	4 件(54 戸)
富士見台二丁目	11 件(300 戸)	2 件(66 戸)	2 件(331 戸)
富士見台三丁目	5 件(91 戸)	3 件(90 戸)	4 件(119 戸)
富士見台四丁目	4 件(107 戸)	0 件(0 戸)	4 件(320 戸)
計	24 件(595 戸)	9 件(253 戸)	14 件(824 戸)

【資料】国立市

(3) 公共施設・公益施設の現状

▶公共施設

富士見台地域は国立市のほぼ中央に位置することから、市役所をはじめ、市民総合体育館、市民芸術小ホール、中央図書館、保健センター、小中学校、保育園、児童館、学童保育所、子ども家庭支援センター、福祉会館など、全市レベル及び主要な公共施設が集積しています。これらの施設の多くが建築後 40 年以上を経過しており、今後、大規模改修や建替えが必要な時期を迎えます。

国立市公共施設等総合管理計画では、公共建築物の更新費用は、長寿命化や保全計画に基づく優先度評価による平準化の取組を含めて、今後 50 年間で年平均 61.0 億円が必要になると推計されています。過去 5 年間の年平均費用は 51.9 億円であり、それと比較すると 1.18 倍になると見込まれます。(財源不足額：9.14 億円/年)

図表：『国立市公共施設保全計画』を基にした将来コストの年度別試算（2017～2066 年度）



【出典】国立市公共施設等総合管理計画(2017(平成 29)年 3月)

▶保健・医療の拠点施設

保健センターの隣接地には医師会、歯科医師会の拠点となる医師会館、歯科医師会館が立地しています。

保健センターは、有償借地となっており、公共施設全体のあり方を踏まえて、その後の検討が必要となります。

▶高齢・しょうがい・児童福祉関係の民間事業所

通所介護（デイサービス）、認知症対応型通所介護、高齢者グループホーム、しょうがい児・者の通所事業所や認証保育所等、民間事業者が運営する高齢・しょうがい・児童福祉関係の事業所が集積しています。

▶地域経済の拠点施設

地域経済の発展の核となる商工会の施設である商工会館が立地しています。

図表：富士見台地域公共施設位置図



【出典】国立市公共施設白書（2016(平成28)年3月)

3章. 富士見台地域の魅力

(1) 「街」の魅力

【資料編】36頁、参照

▶ 計画的に形成されたコンパクトな都市基盤

旧日本住宅公団（現在の独立行政法人都市再生機構）の区画整理により整備された都市基盤、地区を東西に貫く都市計画道路が骨格となり、公共施設、学校、公園等がコンパクトな範囲に計画的に配置され、良好な交通環境、防災環境を有しています。

▶ 心地よく歩くことができる街路空間

桜並木が美しいさくら通りなど歩道が広く、歩車分離が図られ、安心して移動できる都市計画道路や緑を感じながら心地よく歩くことができる街路が形成されています。また、平坦な地形であり、移動もしやすい環境にあります。高齢者を中心に散歩や健康づくりのために歩く人が数多くいます。

▶ 緑豊かで閑静な住宅地形成

戸建て住宅、国立富士見台団地など、閑静で緑豊かな居住環境があります。

▶ 生活を支える公共施設・にぎわいを生む教育・文化施設等の集積

市役所を中心に、教育・文化施設、医療機関等が集積し、憩いやスポーツを楽しむ公園も多く、生活利便性が高いエリアとなっています。

▶ 地域に密着した親しみのある商店街の形成

JR南武線・谷保駅、矢川駅の周辺には、風情を感じる地域に密着した商店街が形成されています。

▶ バリエーションに富む印象的な景観

さくら通りや矢川通りなど緑の軸の景観、戸建て住宅、沿道共同住宅、団地等様々な緑のある住宅地景観、子供たちで賑わう公園等緑豊かなオープンスペースの景観、駅前の低層で身近に感じられる商店街景観、緑豊かな景観、富士山を望める眺望景観等、印象的な景観が数多くあります。



東西に貫く都市計画道路
「さくら通り」



緑豊かな住環境を形成する
「国立富士見台団地」



矢川メルカード商店街（矢川駅前）

(2) 「コミュニティ」の魅力

➡ 【資料編】37頁、参照

▶新たな住民を迎え入れる地域コミュニティがあるまち

国立富士見台団地の建設を契機に多くの人に移り住んできました。そして、基盤整備の進展にあわせて戸建て住宅が徐々に増えていきました。また、昨今では、さくら通り沿道等への共同住宅建設が進んでいます。このように、常に新たな住民を迎え入れながら、共に住もうための地域コミュニティが育まれてきました。

▶長年培われた地域コミュニティづくりを担う自治会・商店会等の活動 (...コラム①)

国立富士見台団地内の自治会など、各エリアの地縁組織⁽¹⁾が、祭りや催しなど、地域コミュニティづくりを支える様々な活動を活発に行っています。

▶若者やファミリー世帯、学生の存在

共同住宅の建設を契機として、富士見台地域のまちの活力向上を支えるファミリー世帯や子どもの増加が見られます。また、東京女子体育大学や一橋大学の学生も多く暮らしています。

▶地域に愛着を持ち、様々な立場で活躍する住民の存在

富士見台地域には、まちが形作られた当時から住まい、地域への愛着が深い多くの住民がいます。また、次世代を担う学生、ものづくりや場づくりに携わる多様なノウハウを持った人・団体など、これからのまちの未来を一緒につくる心強いパートナーとなる豊富な人材が暮らしています。

▶新たなことを始めやすいまちの雰囲気

地域活動に関わる方からは、まちなかで活動している人の姿が見えて、つながりやすく、何か新しいことを始めやすい雰囲気があるという声を聞きます。

▶多様なまちづくり活動の展開 (...コラム②)

駅前商店街の活性化に向けたまちづくり活動や周辺大学の学生と連携した取組など、若者や新たな担い手によるまちづくり活動が展開されています。

(1) 地縁組織：自治会や商店会など、一定の区域の居住者等の地縁に基づいて形成された地域で活動する団体のこと。

地域コミュニティづくりを担う自治会・商店会等の活動

富士見台地域では地域の中でのつながりづくりや課題の解決の為に、古くから地域のコミュニティづくりを担ってきた活動が多くあります。

- 国立富士見台団地の集会所で行われる「居酒屋さんぞう」は、定期的に団地住民が集まり、食べたり飲んだりしながら歓談する交流の場です。同じ自治会の中に「顔見知りの輪」を広げようと始まりました。



居酒屋さんぞう

- 谷保駅からすぐに位置する「たまりば 宙(そら)」は、老若男女、誰もが自由に自分のペースで過ごせる居場所です。お茶のみの場として、裁縫をする場として、小物を販売する場として、様々な使い方ができます。



たまりば 宙

- 地域住民、商店会、一橋大学、国立市が協力し合い、富士見台地域におけるまちづくりを実践している「NPO 法人くにたち富士見台人間環境キーステーション」は、コミュニティカフェ「ここたの」、地場のものを中心とした野菜を販売する「とれたの」、市民に向けた貸しスペース「KF まちかどホール」等の企画・運営を行っています。



ここたの(くにたち富士見台人間環境キーステーションが運営)

- 矢川駅前の「矢川メルカード商店街」では、毎年「矢川まつりサマーデイズナイト」が開催され、露店やイベント等で賑わいます。近隣の東京女子体育大学の学生が 100 名程度、ボランティア活動として露店支援やイベント実演等で活躍し、地域住民との交流が行われています。



矢川メルカード商店街で開催されている「矢川まつりサマーデイズナイト」

多様なまちづくり活動の展開

20代から40代くらいの世代の個人商店主・事業主が増えており、新たなコミュニティを形成し始めています。また地域の中にある課題やニーズを自分ごととして捉え、解決を実践する活動も多く存在します。

近所同士のつながりや団体としての活動など、コミュニティの規模や内容には様々な形があります。また、コミュニティが生まれるきっかけも、共通の趣味を共有する、身近な課題の解決と一緒に取り組むなど様々な形があります。こうした様々な形のコミュニティがつながり、まちづくりの担い手として、手を取り合っていくことが、これからのまちづくりにとって大切なことです。

- 富士見台地域の商店主たちが中心となって定期開催している「kunitachi ゆる市」は、市内を中心とした作り手や店主が集うマーケットとして、毎回大きな賑わいを生んでいます。



Kunitachi ゆる市

- ダイヤ街商店街にあるシェアハウス「コトナハウス」では、一部スペースを子どもからお年寄りまで訪れられる茶の間として開き、多世代交流の実践につなげています。



コトナハウス

- 谷保駅近くにある「Chika-ba (ちかば)」では、日曜大工等に使用可能な工具類を利用できる「みんなでシェアする工房」を開放し地域の方々との交流イベント等を精力的に実施しています。



Chika-ba

- 市が遺贈を受けた、趣ある民家と花や実をつけた樹木等が茂る庭を活用して展開する「元気高齢者の居場所づくり事業」を、住民団体「ひらやの里」が運営しており、高齢者をはじめ赤ちゃん連れのパパママも訪れる、多世代交流の場となっています。



ひらや照らす

(3)「暮らし」の魅力

【資料編】38頁、参照

▶個性あるエリアに挟まれた生活都市

国立駅前や谷保地域など、国立の個性あるエリアに挟まれており、それぞれの魅力を楽しむことができるエリアに位置する住宅市街地となっています。

▶子育て環境が整ったまち

公共施設や教育・文化施設、緑や公園などが集積し、子育てする環境が整っているまちです。計画的に配置された公園には、たくさんの親子連れが訪れ、情報交換の場としても賑わっているほか、公園などで地域のお祭りや盆踊りがおこなわれ、子どもが地域文化にふれあう機会があります。また、生活実感として、治安がよい、ゴミが少なくきれいなまちという声も聞かれます。

▶2つの駅を有し、交通利便性が高いまち

駅前には、人が集い・賑わい、人々の暮らしを支える商店や施設が並ぶなど、その地域の顔となり、玄関口となる地区です。富士見台地域は、谷保駅、矢川駅と2つの駅を有していることから、交通利便性が高いだけでなく、駅前地区を拠点とした様々なまちづくりの可能性を秘めていると言えます。

▶人の交流が生まれる大小様々なイベントがあるまち

谷保天満宮の古くから受け継がれる祭事から、公園や商店街を舞台としたイベントまで、大小さまざまなイベント活動が盛んです。

▶生活利便性が高く、豊かなライフスタイルを実現できるまち

学び・遊び・スポーツなど生活を豊かにする快適な環境が充実しています。また、駅前には地域に密着した商店街があり、買い物やコミュニケーションの場となっています。



国立ダイヤ街商店街（富士見台）



国立市谷保第四公園



くにたち市民総合体育館

(4) 魅力を活かしながら、さらに伸ばすための3つの視点

生活の舞台となる「街」、生活を支える「コミュニティ」、そして「街」と「コミュニティ」によって生み出される「暮らし」の魅力を活かし、さらに伸ばすための取組を進めるにあたって大切にしたい3つの視点を整理します。

①「街」の魅力を活かしながら、さらに伸ばす視点

公共施設の再編等にあわせた暮らしを支える機能の拡充とネットワーク化

富士見台地域は、整った都市基盤を土台に、歩行者空間、公園、公共施設、商店街、住宅など、生活を支える各用途が計画的に配置されています。こうした魅力をさらに伸ばすため、経年変化が進む公共施設の再編や大規模団地の再生計画の進捗にあわせて、不足する生活支援機能を拡充するとともに、各用途が空間的にも機能的にも相互につながるようにネットワーク化を図ることが大切です。

②「コミュニティ」の魅力を活かしながら、さらに伸ばす視点

多様なコミュニティの担い手が出会い・つながる場や機会の創出

各エリアの地縁組織がそれぞれ活発に活動しているほか、若者や新たな担い手によるまちづくり活動も展開されています。こうした多様なコミュニティの担い手同士が互いに交流し、共に地域課題を解決するパートナーとして連携したり、若者やファミリー世帯などの新住民が地域コミュニティに参加できるように、多様な担い手がつながり・出会う場や機会を創出していくことが大切です。

③「暮らし」の魅力を活かしながら、さらに伸ばす視点

だれもが、その人らしい暮らし方を実現できるソフト・ハードの環境の充実

富士見台地域は生活都市として、豊かな暮らしに必要な施設やサービスが充実しており、憩い、学び、文化・芸術を身近に感じられるまちです。今後は、そのポテンシャルをさらに向上させていくために、様々なライフステージに応じて、子ども、若者、子育て世帯、高齢者、しょうがいしゃ等がこうした施設やサービスを利用しやすい環境を整えるとともに、不足する施設やサービスを拡充し、だれもがその人らしい暮らし方を実現できる環境を充実させていくことが大切です。

4章. まちの将来像とまちづくりの方針

(1) まちの将来像

富士見台地域の現状と魅力、及び、魅力を活かしながら、さらに伸ばすための3つの視点を踏まえ、富士見台地域が目指すまちの将来像を定めます。



富士見台地域において、コミュニティインフラが充実することで、人がつどい、魅力ある暮らしの物語が生まれる環境が創造されます。その物語は、人を通じて、他のエリアへ展開していき、新たな暮らしの物語が生まれる好循環が生まれていきます。富士見台地域の取組は、そんな「コミュニティインフラの創造・展開」の第一歩となる取組と考えています。

<コミュニティインフラの創造・展開のイメージ>



(2) まちづくりの方針

【方針①】 街の基盤の再生と歩いて楽しいまちづくり

▶多世代が暮らしつづけられる環境を支えるストック⁽³⁾の形成

- 多世代が暮らしつづけられる基盤となる魅力的なコミュニティが育まれる環境を充実させていくために、経年変化した公共施設や団地等の更新などを通じて、国立市のモデルとなるような良質なストック形成を図ります。
- 安心安全な道路ネットワークの機能強化を図ります。

▶景観や環境の価値向上と歩いて楽しいまちづくり

- 住宅地や商店街の良好な景観の誘導を図ります。
- 緑や農など、地域全体での環境価値の向上を図ります。
- 土地や地域、生活の記憶として市民に親しまれている印象的な景観、魅力的な環境資源を守り、育て、それらに触れ、楽しめるような回遊性を高めることで、歩いて楽しいまちづくりを推進します。

【方針②】 既存の豊かなコミュニティの継承と多世代コミュニティの形成

▶まちづくりとあわせた豊かなコミュニティの継承

- これまでまちの良好な生活環境を支えてきた既存の豊かなコミュニティを、これからのまちづくりとあわせて継承していきます。

▶新旧住民が交流できる多世代コミュニティの形成

- 新しい人を受け入れてきたコミュニティの特性を活かし、新旧住民の交流を促進し、多世代をつなぐコミュニティの形成を図ります。

▶多様なコミュニティの共生の推進

- コミュニティの規模、世代、新旧を問わず、多様なコミュニティ同士が、共に暮らしをつくるパートナーとして、お互いの役割を前向きに認め合う関係づくりを進めます。

【方針③】多世代が魅力を感じ、住み続けられる暮らしの実現

▶高齢者が住み慣れた地域で、住み続けられる居住環境づくり

○住み慣れた富士見台地域で高齢者が住み続けられるための医療・介護や地域の支えあいの仕組みづくりを目指します。

▶若年層、子育て世代が住みたい・住み続けたいと思う魅力づくり

○暮らしやすい魅力的な環境づくりを通じて、若年層、子育て世代を呼び込み、多世代コミュニティの実現を目指します。

▶身近な商店街のにぎわいの形成

○閑静な住宅地と共存した暮らしと身近な商店街のにぎわいづくりを推進します。
○商店街とコミュニティが連携したまちづくりを推進します。

▶だれもが生きがいを持って地域で暮らせる機会の創出

○学び、文化・芸術、スポーツなど、暮らしを豊かにする楽しみごとをだれもが享受できる機会づくりを進めます。
○また、地域における雇用や生産の場の創出、地産地消の推進などを通じて、地域で働き、地域で暮らすライフスタイルの確立を目指します。

-
- (2) 地域に暮らす多様な世代の生活、交流を支え、暮らしの魅力を高めるハード・ソフトの生活基盤のこと。
 - (3) 公共建築物やインフラ施設及び土地といった市有財産のこと。

5章. まちづくりの取組

まちづくりの方針に基づき、富士見台地域が目指すまちの将来像の実現に向けて、今後の取組を定めます。

▶公共施設の再編、及び、シビックセンター⁽⁴⁾の整備

- 多様な人々が暮らしつづける魅力あるまちづくりのために、ストックマネジメント⁽⁵⁾の観点も踏まえて、公共施設の再編を行い、市の中心部に相応しい、高齢・しょうがい・児童福祉、保健・医療等の機能集約と拡充を図ります。
- また、持続可能な財政運営・施設運営の観点から、運営コストや体制の効率化、魅力あるサービスの提供等を図るために官民連携の視点も考慮し、民間事業者等との連携や運営への市民参加も検討するとともに、再生可能エネルギーの活用など、環境に配慮したストックの形成を図っていきます。

▶大規模団地の再生計画の進捗と共に取り組むまちづくりの推進

- 東京都、独立行政法人都市再生機構が行う大規模団地の再生計画・再生事業と共に富士見台地域のまちづくりに取り組みます。
- 取り組むにあたっては、富士見台地域の基盤整備に合わせて集中的に配置された公共施設の再編、及び、国立市が目指すべき社会構想である「地域包括ケアシステム⁽⁶⁾の構築」を具現化したモデル地域をつくるため、多職種連携に留意します。
- 現在の魅力ある住環境を活かしながら、こうしたまちづくりに取り組むことで、子どもや若い世代から高齢者まで様々な世代が安心して、つどい・暮らせる、子育て世代が安心して子どもを育てることができる地域の実現を目指します。

▶緑や農の保全、景観形成、環境に配慮したまちづくりの推進

- 現在の緑の保全や新たな緑の育成を推進するとともに、地域内に残された農地の保全及び有効利用を促進し、緑と農の景観の形成・維持を図ります。
- また、持続可能な社会・地域経営や低炭素社会の形成等の観点から、省エネルギーや自然エネルギー等再生可能エネルギーの活用など、環境に配慮したまちづくりを推進します。

▶まちづくり条例との連携による良好な街並みや用途の誘導

- まちづくり条例との連携により、住宅地や商店街の更新、地域に必要な新たな用途の誘導、オープンスペースの土地利用転換に合わせた良好な街並みや用途の誘導など、地域の特性に配慮しながら、適切な土地利用の誘導を図ります。

○良好な環境を保つため、都市景観形成基本計画や都市景観形成条例を適切に運用し、デザイン性に配慮するなど、まちの統一感を図り、美しい街並み形成を誘導します。

▶ さくら通りの再整備による歩いて楽しい歩行者ネットワークの形成

○さくら通りの再整備により、自動車優先の道路ではなく、「歩行者」「自転車」「自動車」それぞれが安心安全に通行でき、散歩やウォーキングなどの健康づくり、買い物などをゆったりのんびりと楽しめる“人に配慮したゆとりの感じられる道づくり”を目指します。

▶ コミュニティや市民の活動を支える地域交流拠点の確保

○学校施設の建替え(更新)の機会にあわせて、小学校区単位の徒歩圏に、自治会や地域でさまざまな課題解決に取り組むNPO等の活動を支えたり、市民の生涯学習・生涯スポーツ、文化、芸術活動の場としても利用でき、多世代がつどい、活用できる地域交流拠点の学校内での確保について、建替え計画の中で検討します。
○あわせて、市民主体のまちづくりやコミュニティ活動に必要な情報を提供したり、相談機会の拡充を図るなど、効果的な活動支援の方策を検討します。

▶ 富士見台地域における地域包括ケアの推進

○富士見台地域において、介護施設や公共施設が比較的充実し、互助の取組が積極的に行われていることを活かし、高齢者が病気や認知症になっても安心して住み続けられるように、医療・看護・介護等の専門的な支援と、すでに展開されている住民同士の支え合い活動やNPO等による居場所づくりとの組み合わせにより、地域包括ケアシステムの実現を図ります。
○また、地域住民のニーズや地域に不足している生活支援を把握し、関係団体に働きかけることで、身近な地域の中で困っている人と必要な支援をつなげる役割を担う地域生活支援コーディネーター⁽⁷⁾を配置し、第一層生活支援コーディネーター⁽⁸⁾と連携しながら生活支援体制の整備と実現を目指します。

▶ 若年層・子育て世代を積極的に呼び込むまちづくり

○多世代が相互に支え合い暮らすミクストコミュニティ⁽⁹⁾の形成を進める中で、若年層、子育て世代などが住みたいと思えるまちづくりを進めます。
○身近な地域で安心して子育てができるよう、教育・保育施設や地域子育て支援拠点の整備を進めるとともに、国立の将来を支える子どもの生きる力を育て、子どもの夢を実現できる魅力あるまちづくりを進めます。
○長年活動する自治会・商店会等や、まちづくりの新たな担い手として子育て支援

等の活動をする個人・団体との連携が図れるように情報の把握や発信に努めます。

▶ 駅前の新たなにぎわい創出

- 谷保駅及び矢川駅の周辺部に広がる既存の商店街では、商店会や商工会などの関係機関との連携・協働のもと、高齢者・子育て世代を意識した駅前の新たなにぎわいの創出と親しみのある商業地の形成を図ります。また、一橋大学や東京女子体育大学との連携や若い世代が出店しやすい環境づくりを進めることで商店街の活性化を図ります。
- 矢川駅周辺においては、JR 南武線と道路との立体交差化等で創出される高架下用地の活用を図るとともに、商業・サービス機能の向上や南北一体のまちなみの形成を図ります。
- 矢川メルカード商店街については、都営矢川北アパートの建替えを契機とした商店街活性化を図ります。

▶ 安心・安全なまちづくりの推進

- 防災の観点から、自助・共助・公助による防災体制の整備を進め、災害時の被害を最小限に抑えることができる安心・安全なまちを目指します。
- 防犯の観点から、市民、地域、市が協力して防犯対策を行い、犯罪が発生しにくい安心・安全に暮らせるまちを目指します。

▶ 市民の知恵・アイデア・ノウハウを

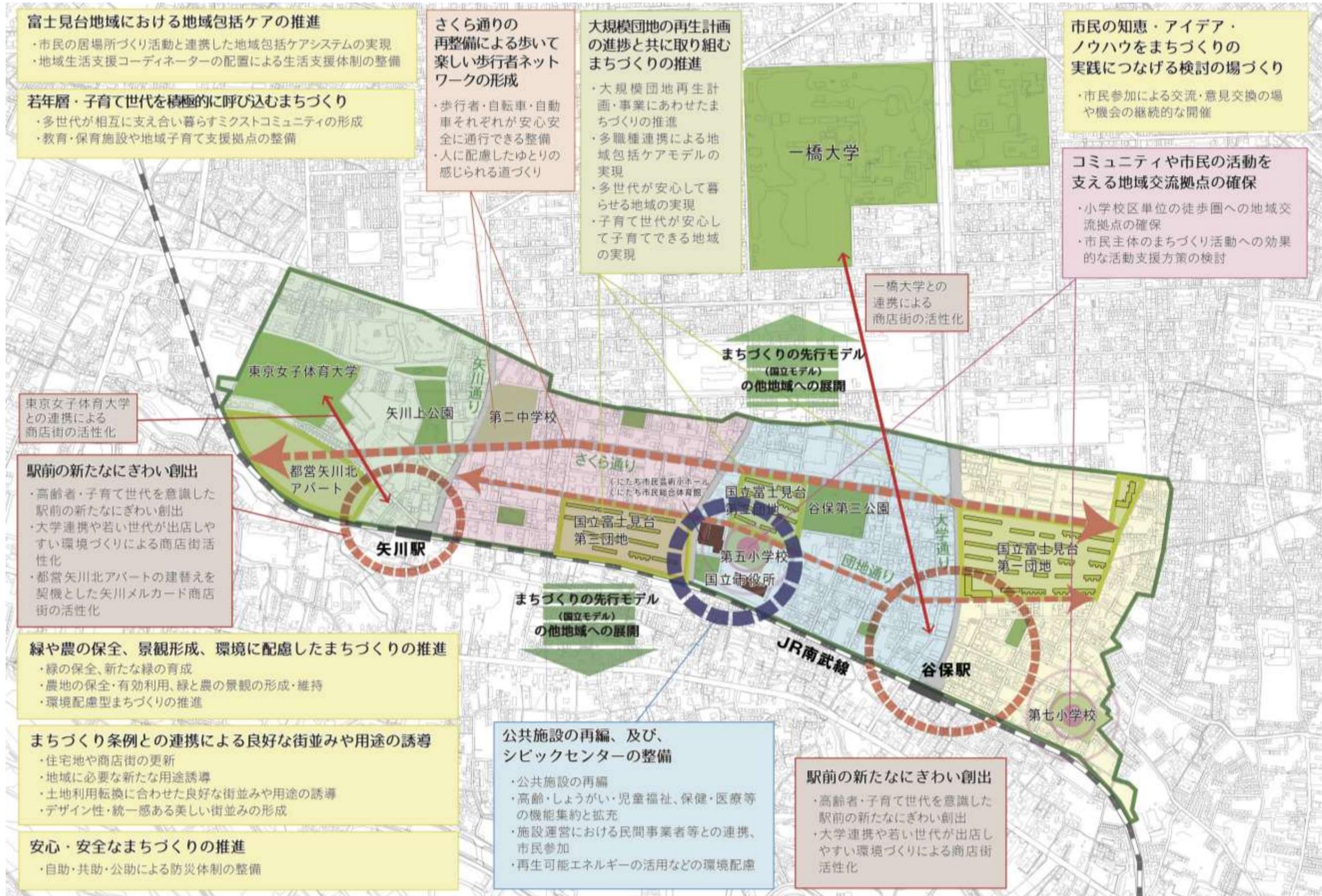
まちづくりの実践につなげる検討の場づくり

- 本ビジョンの策定プロセスにおいて開催した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン（案）に関する懇談会～富士見台地域の魅力を共有し、まちの将来を考えよう！～（以下、懇談会という）」では、学生から高齢者まで、多様な立場・世代の市民が一堂に会し、お互いのまちに対する思いを共有しながら、これからのまちづくりを共に考え、非常に多くの取組アイデアが出されました。
- こうしたアイデアの実現に向けては、住民、地域団体、事業者、市等がそれぞれの得意分野を活かし、連携・協働して実践していくことが不可欠です。
- そのためにも、今後も、多様な市民等が集まり、交流し、まちづくりを語り合い、実践につなげる場や機会を継続的に設けていきます。

➡ 【資料編】 42～48 頁、参照

-
- (4) シビックセンター：市役所や市民総合体育館などの市民生活を支えるための公共施設が集積した地域のこと。
- (5) スtockマネジメント：公共建築物やインフラ施設及び土地といった市有財産を資源として捉え、次代を見据えた運用を図り、資源の効果を最大限発揮させることで、健全な財政基盤に基づくまちづくりを推進するための取組のこと。
- (6) 地域包括ケアシステム：地域包括ケアとは、地域住民が高齢になっても、住み慣れた地域で安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することができるように、医療、介護、福祉のみならず地域の多様な社会資源を本人が活用できるように、様々な支援者が包括的・継続的に支援していくこと。地域包括ケアシステムとは、この地域包括ケアの考え方に基づく仕組みのことで、自治体や地域ならではの特征がある。国立市には、地域包括ケアシステムの構築を進める上で、以下の4つの規範がある。
- ① 安心して豊かな暮らしを続けることができる
 - ② 地域社会に参加できる
 - ③ 認知症や重度要介護でも住み続けることができる
 - ④ ひとり暮らしでも住み続けることができる
- (7) 地域生活支援コーディネーター：第一層生活支援コーディネーターと連携しながら身近な地域の中で生活支援が必要な人を把握し、生活支援等のサービスにつなげると共に、不足しているサービス等についても把握する役割を担う人のこと。
- (8) 第一層生活支援コーディネーター：市全体の生活支援のコーディネート役として既に配置されており、必要な関係機関や生活支援体制を検討する協議会及び地域生活支援コーディネーターとの連携を行うとともに、住民主体によるサービスの開発や担い手の養成などを行う人のこと。
- (9) ミクストコミュニティ：高齢者や子育て世代など、様々な世代がつながるコミュニティのこと。

■まちづくりの取組（イメージ図）



6章. ビジョンの実現に向けて

▶ビジョンの実現に向けた取組

市は、本ビジョンに位置付けられた取組の具体化を検討するために、下記の取組を進めます。

①庁内の検討・推進体制づくり

庁内の各関係課が本ビジョンに基づく取組を横断的に検討・推進できる体制を拡充します。

②実現方策等の検討

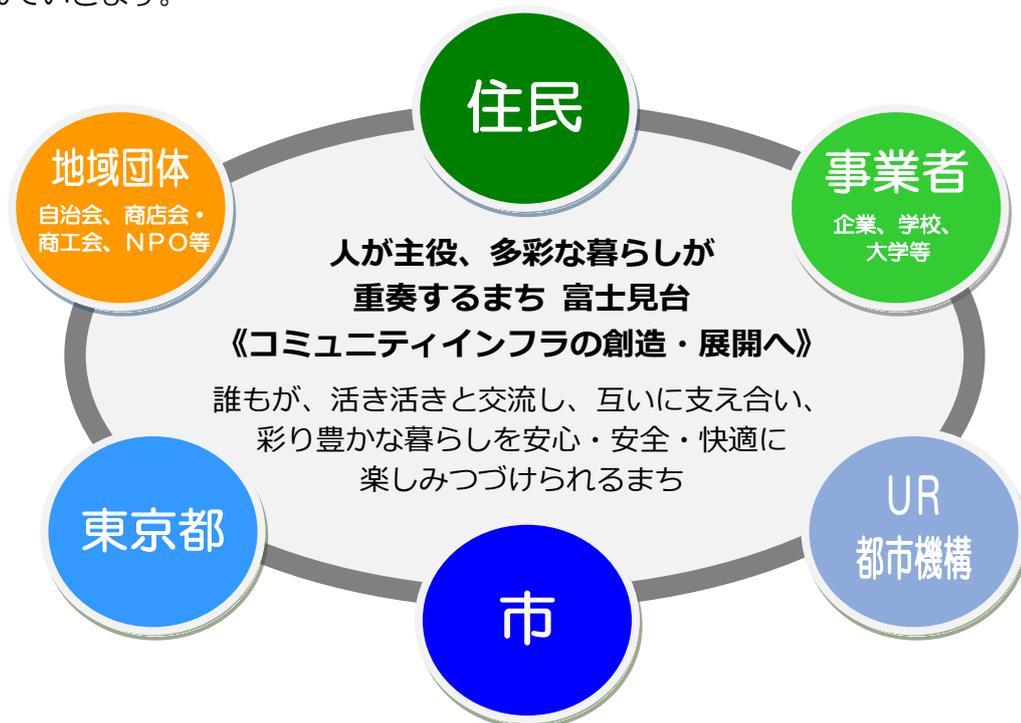
まちづくりの推進に資する法制度・事業の活用可能性の検討や事業化に必要な計画づくりの検討など、効果的な実現プロセス・方策を継続的に検討します。

③市民等の参加による検討の場づくり

市民等、関係する様々な主体が参加し、効果的な役割分担や連携・協働による取組の進め方等を協議し、実践につなげてくために必要な検討の機会や場を計画的・継続的に設けていきます。

▶主体間の協働・連携

市は、住民、地域団体、事業者、東京都、独立行政法人都市再生機構(UR 都市機構)と協働・連携して「人が主役、多彩な暮らしが重奏するまち 富士見台《コミュニティインフラの創造・展開へ》～誰もが、生き活きと交流し、互いに支え合い、彩り豊かな暮らしを安心・安全・快適に楽しみつづけられるまち～」の実現に取り組んでいきます。



【資料編】

1. 国立市富士見台地域まちづくり庁内検討会設置要綱 . . . 31
2. 国立市富士見台地域まちづくり勉強会「まち歩き散歩」開催報告 . . . 33
3. 国立市富士見台地域まちづくりビジョン（案）に関する懇談会
～富士見台地域の魅力を共有し、まちの将来を考えよう！～開催報告 . . . 35
4. 「国立市富士見台地域まちづくりビジョン(案)」に対する
パブリックコメント実施報告 . . . 49



1. 国立市富士見台地域まちづくり庁内検討会設置要綱

○国立市富士見台地域まちづくり庁内検討会設置要綱

平成26年5月22日訓令第36号

改正

平成27年5月18日訓令第52号

平成29年6月30日訓令第55号

国立市富士見台地域まちづくり庁内検討会設置要綱

(目的)

第1条 国立市富士見台地域におけるまちづくりの方向性を検討するため、国立市富士見台地域まちづくり庁内検討会（以下「検討会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 検討会は、次の各号に掲げる事項について検討し、その結果を市長に報告する。

- (1) 国立市富士見台地域のまちづくり構想に関する事項
- (2) 矢川公共用地（所有地）の具体的活用に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、国立市富士見台地域のまちづくりに関して必要な事項

(組織)

第3条 検討会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

- 2 委員長は、都市整備部長をもって充てる。
- 3 副委員長は、都市整備部参事をもって充てる。
- 4 委員は、別表に掲げる職にある者をもって充てる。

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条の結果を市長に報告するまでの間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員長は、検討会を代表し、会務を統括する。

- 2 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、副委員長がその職務を代理する。

(会議)

第6条 検討会は、委員長が必要に応じて招集し、議長となる。

- 2 委員長は、必要があると認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(検討部会)

第7条 検討会は、検討部会を設置することができる。

- 2 検討部会は、委員長が指名する職員をもって構成する。
- 3 検討部会は、検討会から付議された事項について調査検討し、その結果を検討会に報告しなければならない。

(庶務)

第8条 検討会の庶務は、都市整備部国立駅周辺整備課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この訓令は、平成26年5月22日から施行する。

付 則 (平成27年5月18日訓令第52号)

この訓令は、平成27年5月18日から施行する。

付 則 (平成29年6月30日訓令第55号)

この訓令は、平成29年7月1日から施行する。

別表

政策経営部	政策経営課長
	特命担当課長
行政管理部	建築営繕課長
	防災安全課長
健康福祉部	高齢者支援課長
	地域包括ケア推進担当課長
	健康づくり担当課長
子ども家庭部	児童青少年課長
	施策推進担当課長
	待機児童対策・調整担当課長
	子育て支援課長
生活環境部	まちの振興課長
都市整備部	都市計画課長
教育委員会	教育総務課長

2. 国立市富士見台地域まちづくり勉強会「まち歩き散歩」開催報告

富士見台地域は、国立市の中央に位置します。その富士見台地域にある国立富士見台団地について、今年が創立五十周年という記念の年です。誕生五十年を機に過去を振り返り、将来のまちづくりを考へるきっかけとして、富士見台地域の魅力を体感するまち歩きを開催しました。当日は、幅広い年齢の方々二十人が参加し、一緒にまち歩きを行い、ワークショップを通して地域に残したい大切なものは何かを考えた回を振り返りました。

国立富士見台団地の成立
 富士見台地域は、団地ができるまで人家はなく畑ばかり。約百人もの地権者からの土地買収は難航し、団地建設まで十年近くかかりました。この間に地価が高騰、団地は規模を縮小し、三つの島に分かれたのです。その後、土地区画整理は進み、公有地は拡大。それにより公共施設が集中することになりました。この団地の建設にともない国立駅と谷保地区を結ぶ道路やバスも開通し、南部地域も開発が進み人口が増加しました。さまざまな困難を乗り越えながらコミュニティを築いてきた五十年でした。

国立市富士見台地域まちづくり勉強会
 「くらしと風景」をテーマに富士見台地域
まち歩き散歩

平成27年10月31日(土) 13時~16時
 主催：国立市役所 共催：国立富士見台団地自治会 協力：U市都市情報



昭和三十三年頃
 団地建設前の富士見台地域



団地自治会の
 多和田栄浩さん

Step.1

団地建設以前の富士見台地域は一体どのような景色だったのでしょうか。
 (語り手)となるまちの人々に話を聞きながら
 国立富士見台団地敷地内や富士見台地域を歩きました。



昭和四十二年頃
 富士見台団地の建設建設



団地の
 鈴木正男さん

① さくら通り植樹の思い出
 さくら通りの植樹をしました。職人十人程度で十日間で終わらせました。桜は全部で二百九本。工期が短くて大変だったけど、もともと畑だった土地に植えているので、土壌が良く苦労はいりませんでした。
 大通りの桜の植樹には父が関わり、さくら通り植樹の年に生まれた息子が今は会社を ついで社長をやっているよ。



昭和四十二年頃
 富士見台団地の建設建設



昭和三十三年頃
 ダイヤヤ街
 国立富士見台団地自治会

② 子ども目録で見た富士見台
 団地にはり歳から住んでいます。時代とともに子ども遊び場が変わっていった気がします。遊具や砂場が減っていった印象。小学校になると同じ団地内なのに敷地内にある細い一本の道を境に小学校区が分かれました。同じ学区内での友達が減っていききました。



第一団地の
 田中薫さん



手玉山の
 山田みつあきさん

③ 高いの思い出
 昭和四十年に開業しました。当時は忙しくて、一五年くらいはとにかく大勢の人でにぎわったの。隣の魚屋さんなんて、売上を数えるのも嫌になるくらいだったですよ。小さくても、なんでもそう、商店街で人情があった。人のつながりの中で生きているのが元気の源。

④ 風景の移り変わり

区画整理直後も畑が多かったね。さくら通りも車はほとんど通っていません。人影も少なかった。このあたりに、谷保の人が、持っている土地の半分を売って、そのお金で自分の子どものために、残った半分の土地に家を建てて人が多かった。そのことを「新屋(しんや)を建てて」と言ったね。



団地の
 佐伯英夫さん

⑤ 幼児教室から「風の子」へ

当時、三歳児保育要望が多かった。昭和四十二年に集会所で団地の幼児教室がスタートし現在「風の子」として継続されています。常に子どもにとって何が大切かを話し合っていて保育にあたってききました。今後も地域の子どもの場になっていくことを願っています。



幼児教室の
 桑原禎子さん

⑥ 調整池のその昔

団地ができる前調整池は畑だったけど、雨が降るとその畑に水が溜いたんだ。調整池の北側には帯状に雑木林が広がっていたね。当時、この辺りは畑が広がっていて視界を遮るものはなく、東京タワーが見えたよ。開校したばかりの第二中学校の校庭では、もともと畑だったため大根やごぼうが花を咲かせていたね。



団地生活者まちづくり協会の
 佐伯英夫さん

写真提供：飯島浩さん、くにたち郷土文化館 資料作成：武蔵野学院大学

Step.2

「大切にしたいところマップ」

〈語り手〉の方々から聞いたお話や個人の体験を元に、この地域の「大切にしたいところ」とはなんだろうという話を話し合い、ワークショップを通して個性あふれる富士見台地域の「大切にしたいところマップ」をつくりました。五十年の月日の中、育まれた景色の変化とその未来へみなぎりを向けていきます。



学生主導の活気のある商店街、農地や遊楽所などを大切にしたい！

「大切にしたいところマップ」
〈語り手〉の方々から聞いたお話や個人の体験を元に、この地域の「大切にしたいところ」とはなんだろうという話を話し合い、ワークショップを通して個性あふれる富士見台地域の「大切にしたいところマップ」をつくりました。五十年の月日の中、育まれた景色の変化とその未来へみなぎりを向けていきます。

子育てしやすいまちを目指していきたい！

人と自然を感じられるまち!!

防犯など形で変えてくれている人たちを大切にしたい。

様々な樹、豊かな緑が必要。木や木の影があることで暑もやってくる！

将来まで残るシンボルツリーを設置したい！

東京タワーが見えた顔が印象的だった！

富士見台だよ
富士見台!

グループごとに作った地図を発表して、それぞれの思いや考えを共有しました。

3. 国立市富士見台地域まちづくりビジョン（案）に関する懇談会 ～富士見台地域の魅力を共有し、まちの将来を考えよう！～ 開催報告

1. 懇談会の目的

本ビジョンの策定に向けて、富士見台地域の魅力や課題、今後の取組アイデア等について、市民の皆様から広く意見をいただくために、ワークショップ形式による懇談会を開催しました。



2. 実施概要

より多くの市民の皆様の参加を得るため、平日・休日の2回（①・②とも同内容）開催し、延べ93名の皆様のご参加いただきました。実施概要は、下表の通りです。

日時	①2017(平成29)年6月10日(土) 10:00～12:00 ②2017(平成29)年6月13日(火) 19:00～21:00
会場	①国立市役所 3階 第1・2会議室 ②くにたち市民総合体育館 2階 第1・2会議室
参加人数	計：93名(他、傍聴者計：9名) ①46名(他、傍聴者3名) ②47名(他、傍聴者6名)
広報等	<p><参加対象></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内在住・在勤・在学されている方で、会の開催趣旨に賛同いただける方 <p><広報手段></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシの公共施設設置による公募 ・チラシのホームページ公開による公募 ・市報(5/20号)による公募 ・富士見台地域内の11自治会・4商店会への参加依頼 ・富士見台地域内のまちづくり活動団体への参加依頼
プログラム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会あいさつ 2. オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・本日の趣旨説明 ・まちづくりビジョン(案)作成の経緯 ・まちづくりビジョン(案)の概要説明 ・まちづくりビジョン策定の流れ ・本日の進め方 3. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> テーマ①：まちの良いところ(魅力)、気になるところ(課題)を確認しよう テーマ②：魅力を伸ばし、課題を解決する取組を考えよう 4. グループ発表 5. 閉会あいさつ
主催	国立市 都市整備部 富士見台地域まちづくり担当



3. いただいたご意見

(1) まちの良いところ(魅力)

街

- **コンパクトな良さがある**
 - ・ 国立市は市街地がコンパクトで他市と比べればバラバラではない。
- **団地はゆったりと計画されており、住みやすい。古き良き昭和レトロの雰囲気がある**
 - ・ 団地は住みやすい。
 - ・ 昭和のにおい、レトロ。程よい昭和感がよい。
- **なだらかな地形である**
 - ・ 地理や施設がわかりやすく、平らで移動が楽である。
- **道路が整備され、交通環境がよい**
 - ・ 道路が整備され、さくら通り等すばらしい道路がたくさんある。
 - ・ 道路が広いが交通量が少なくてよい。
 - ・ さくら通りの自転車専用道路がよい。
- **道路が広く、自然や季節を感じながら安心して散歩を楽しめる**
 - ・ 歩道が広く子どもも大人も安心して歩けるので散歩にちょうどよい。
 - ・ 歩行者にも自動車にも楽しめる桜通り、さくら通りは人が出会う場となる。
 - ・ 大学通りの散歩、のんびりでできて高齢者には健康に良い。
- **住環境が良く、閑静な住宅地となっている**
 - ・ 夜は真っ暗なのがよい。
 - ・ 東京らしくなく、のんびりとしている。
- **団地や公園等、いたるところに豊富な緑がある**
 - ・ 団地の間の緑が気持ちよい。国立富士見台団地の緑は国立全体の宝である。
 - ・ 第三団地の周辺の緑、アジサイが多く芝生もあり、見ていて気持ちがよい。
 - ・ 緑豊かな場所の豊富さ。春の桜、夏の緑がきれい。大学通りの桜がよい。
 - ・ 緑のコリドーで昆虫・虫の住む街（ツミ、カッコウ、野生化したオウム）。
- **公共施設が集積していて便利である**
 - ・ 公共施設が多くて便利である。
 - ・ 芸小ホールは市内の文化活動の中心。公園もありスポーツが身近でできる。
- **目印となるランドマークが多く、風景が変化に富んでいる**
 - ・ ランドマークが多く道に迷いにくい（歩いていて楽しい）変化に富む。
 - ・ 富士山が見える。
- **桜通りの桜がきれいで富士見台の象徴となっている**
 - ・ さくら通りの桜がきれい。さくら通りは富士見台の象徴である。
 - ・ さくら通りの車の交通量が少ない。
 - ・ 桜の木が大事。それを守りたい市民がいる。
- **ゆとりがあるきれいな団地があり、景観のよさにつながっている**
 - ・ ゆとりがありきれいな団地である。
 - ・ 敷地の管理がよい。
 - ・ 団地の空間がまちとのつながりを感じられてよい（第二団地北側）。

コミュニティ

- **手ごろな家賃で住める場所もあり、新しい住民が移り住む可能性がある**
 - ・東京の中では家賃が手ごろで、新しいことにチャレンジしたい人材の移住も期待できる。
- **市民団体を受け入れてくれるまちである**
 - ・NPO等の活動が多いと感じる。
- **自治会の活動が盛んで、みんなで集う機会がある**
 - ・街や公園の清掃、廃品回収からつどいの場運営など自治会で様々な活動やっている。
 - ・自治会青年部のゆるい連合がある。
- **団地ごとにコミュニティを育む活動がある**
 - ・居酒屋きんぞう（第二団地）、わくわく映画サロン（第三団地）、風の子（第三団地）、ふれあいきっさ（第一団地）、団地の会でみんなでごはん（毎週水曜日）など。
- **若い人と高齢者が共存しているまちである**
 - ・老人世帯がいる地域でも子どもたちの声が近から聞こえてくる。
- **親子連れや子ども、学生など若い世代が多く、外に出た国立出身者が戻ってきている**
 - ・親子連れや学生が多い。
 - ・小中学校が多く、今後幼稚園もできるので子どもが多い。
 - ・昼間にも外で親子連れをよく見る。
 - ・同級生が家族になって戻ってきている。
- **ものづくりに関わる人、学生、地域に愛着を持つ住民など、人材が豊富である**
 - ・ものづくりに関わる人が多い。実は有名なクリエイターなども多い。
 - ・学生を含め、多様な能力をもつ人たちがまちにいる。
 - ・ふるさとに愛着のある人、街づくりに興味を持つ人、まちの将来を考える人がいる。
- **まちなかで活動している人の姿が見える。新しいことをはじめやすい**
 - ・何か新しいことを始めやすい雰囲気がある。
 - ・若い人にとっても気取らずに気楽に暮らしやすい。
- **民間主導のまちづくり活動が多い**
 - ・民間の主催する実行委員形式の団体・活動が多い。
- **商店街活性化の取組がある**
 - ・「人間関係キーステーション」の「商店街協同」チームで、『やっほー』で商店街特集やクーポン配布などを行っている。3人組の「やほレンジャー」もいる。
- **学生が積極的に参加し、国立のまちを支えている**
 - ・学生さんたちの国立を考えてくれる力が頼もしい。
 - ・学生が積極的に地域活性化に頑張っている。
- **商店街、自治会、学生の連携がある**
 - ・特に夏祭りはいつも連携し協力体制ができています。
 - ・このつながりが地域のつながりにもなっており大切である。
- **地域内に小さなコミュニティの場がたくさんあり、活動が活発である**
 - ・小さなコミュニティの場がたくさんある。
 - ・公園でラジオ体操をやっている。
 - ・桜などを守る活動がある。桜通りなど小学校でも色々な取組をしている。
 - ・シルバー人材センターの清掃活動。地域の安全にもつながっている。
- **多世代や異文化の人たちの交流の場所がある**
 - ・「リンクリング国立」（愛称「駄菓子屋くにちゃん」）は集会所で始め、学生ボランティアも参加し12年目になる。
 - ・子どもから大人まで誰でも集まることのできる場所がある。

暮らし

- **富士見台地域が国立市の南北の地域をつないでいる**
 - ・ 国立駅周辺の地域と谷保地域の中継地になる。中間の良い感じである。
- **谷保の歴史が面白い**
 - ・ 谷保の歴史を知ると面白い。
 - ・ 歴史を感じる神社・仏閣・古墳がある。
 - ・ 江戸街道が残っていて散歩ができる（周辺では富士見のあたりだけ残っている）。
- **おしゃれな国立とはちがう、新しさとノスタルジックな古き良さが入り混じる魅力がある**
 - ・ おしゃれ“国立”とは違う富士見台地域がよい。
 - ・ 新しさと古さが入り混じるまちで、ノスタルジックな風景が多い。程よい昭和感がよい。
- **子育てしやすい施設が整い、子育てを支える多様な取組がある**
 - ・ 公園や児童館が多く、育児系施設もあり、子育てしやすい環境である。
 - ・ 幼児教室や見守り活動など子育てを支える多様な取組がある。ただし、ほとんど団地外から来ているので、地域に子育て世代をもっと増やす必要性を感じる。
 - ・ 教育施設（学校）が多く子育てにいい。また、小児科のクリニックが複数あり安心である。
- **大小多くの公園があり、緑が豊かで子供をのびのび遊ばせたり、自由に活用できる**
 - ・ 大きい公園が多くて子どもをノビノビ遊ばせられる。
 - ・ 公園や広場が多く、ボール遊びなど自由に活用できる空間がある。
- **治安が良く安全で静かで、清潔感のあるまちである**
 - ・ いつも人の目がある安心感がある。夜でも安心して女性の一人歩きができる。
 - ・ 見守り活動が活発である（背景として変質者の出没があるが）。
 - ・ ゴミが少なくきれいなまちである。
- **地域の中に谷保駅と矢川駅の2駅があり、利便性が高い**
 - ・ JRの駅が2つあり便利。バスの移動も便利である。
 - ・ 各駅にエレベーターが設置され便利になった。
 - ・ 谷保駅で深夜バスが使える、羽田行リムジンバスがある。
- **人が集まる多様なイベントが多く、人と話す機会が多い**
 - ・ 広場や集会所を利用したイベントやお祭りが多い。
 - ・ 谷保天満宮のお祭り、天下市、一橋祭、市民祭、商店街ではハロウィン、JAZZ、旧車祭（クラシックカーが集まる@谷保天満宮）など祭りやイベントが多い。
 - ・ イベントは人がいっぱい交流の場を作り出している。
- **生活のための様々なものが集積していて便利である**
 - ・ スーパーマーケットや商店が多く買い物に困らない。
 - ・ ガソリンスタンド、あらゆる要素がある。
 - ・ 地場野菜の直売所が点在していて、採れたての地元産の旬の野菜・果物を食べられる。
- **生活圏に親しみやすい商店街があり、生活の声がする賑やかさが魅力である**
 - ・ 生鮮三品（魚、肉、野菜）が手に入る。昔ながらの良いお店、新しいお店がどちらもあつある。
 - ・ ダイヤ商店街は昔ながらのアーケードで、お客さんと店主との距離が近く親しみやすい。
 - ・ 生活の声がする賑やかさが住み続ける理由になっている。
 - ・ 団地内の商店もふくめ個人商店が多く、業種も多種で、とても賑やかである。
- **商店街に良い店やおいしい飲食店が多く、個性的で魅力あるお店や活動が増えている**
 - ・ ダイヤ街にこだわりの人気店が多い。
 - ・ 谷保駅周辺がおしゃれエリアになり始めている。コパン通りの街灯のアート作品が面白い。
 - ・ 路地裏は賃料が安く、個人でも借りやすい為、良質なお店が多くできている。
 - ・ 飲食店も非常に美味しいお店が多いと思います。
 - ・ 個性的なお店が増えてきた。個性的な人が商店をやっている。

(2) 気になるところ(課題)

街

- **国立富士見台団地の高齢化が進み、若い人や子どもが減っている**
 - ・国立富士見台団地の高齢化が進んでいる。若者に住んで欲しい。子どもが戻ってきてほしい。
 - ・高齢化の詳しい状況調査や対策をURと一緒に進めた方がよい。
 - ・エレベーターがなく4~5階への階段の上り下りは高齢者や赤ちゃん連れには暮らしにくい。
- **国立富士見台団地の経年変化や空室化が進んでおり、防災や防犯上心配である**
 - ・老朽化していて住みづらい。水回りに課題がある。
 - ・空室が多い。空室の利用が必要である。空室が多く防犯上不安である。
 - ・団地内に袋小路多く、防災上不安である。
 - ・家賃が高いことで空室が増加しているのではないか。
- **国立富士見台団地のコミュニティが希薄になってきている**
 - ・住民同士の挨拶が少ないなど、団地の人の孤立が増えている。
 - ・自治会活動が継続的に活動できるか心配である。
- **国立富士見台団地の再生に関する今後のあり方が不安である**
 - ・もし建替えた場合、さらに家賃が高くなり、住民が戻れなくならないか心配である。
 - ・高層建築に建て替えれば良いというものではない。
- **建替えができない戸建て住宅が北に集中している**
 - ・北を中心に他の場所でも一部の路地奥にある戸建が建替えできず老朽化している。
- **さくら通りが延伸すると交通量や沿道環境が変化する**
 - ・さくら通りの魅力は交通量の少ない所。将来の自動車の形態や使われ方が今とはまったく異なることを充分ふまえて、延伸部分をどうするか決めて欲しい。
 - ・さくら通り開通後には商店街ができるとうい。住居系用途地域を一部変更したらよい。
 - ・富士見台一丁目までバス路線を伸ばすなど、東側の利便性を高めてほしい。
 - ・さくら通りでまちが分断されている印象がある。
- **さくら通りの自転車通行帯が危ない**
 - ・自転車道があるのに歩行者と自転車が入り混じっている。一方通行のルールにしたい。
- **桜の伐採が残念である**
 - ・桜通りの桜が老朽化して伐採せざるを得ないのが残念である。
 - ・桜並木が最大の魅力だが、伐採でいずれ国立から桜が消えるのではないか。
- **狭い道路や見通しが悪い道路、バリアフリー化されていない道路がみられる**
 - ・バス通りが狭い(地区中央の東西通り)。
 - ・甲州街道から富士見台へ入る道路が狭くて車で入りにくい。
 - ・狭くて見通しの悪い道路がある。
 - ・歩道がもう少し広くても良い。歩道や信号がなく、夜は特に怖い。
 - ・道路等はしょうがいのある方への配慮が必要である。
- **踏切で渋滞が発生する**
 - ・谷保駅・矢川駅踏切で道路が渋滞する。
- **南武線で南北が分断されてしまっている**
 - ・南部線の線路が分断要因にならないようにしたい。
- **高い建物が増えて、景観が悪化しつつある**
 - ・10メートルの戸建て住宅が多くなってきた。
- **街づくりにデザインの視点が不足している**
 - ・ハードの街づくりにデザイン視点が不足している。

コミュニティ

- **高齢者が増えているが、困ったことを相談できる場が足りない**
 - ・年金生活の高齢者が多い。課題が個別具体で相談が難しい。
- **子どもや一人暮らし高齢者の個食が増えている**
 - ・子供の貧困が話題だが、個食する子供や一人暮らし高齢者が食事できる環境があれば良い。
- **自治会など地域コミュニティの担い手の活動の元気がなくなっている**
 - ・高齢のため、自治会活動に参加できず、やめてしまう家族が多くなってきている。
 - ・自治会のイベントでは参加者が減っているのも、もっと人のつながりをつくりたい。
 - ・自治会が何をやっているのかよく分からないので、どう関わればよいか分からない。
 - ・民生委員のなり手が不足している。
- **多世代交流の機会が少ない**
 - ・多世代交流の機会があまりない。
 - ・コミュニティ活動への若い人の参加が少ない。
- **新たな居住者と地域住民とのつながりが希薄である**
 - ・新住民と地域住民のコミュニケーションがうまくいっていない。
 - ・祭りには参加してくれるが、地域活動への参加は少ない。
 - ・個人主義の影響なのか地域活動に協力的ではない。地域と関わりたくない人もいる。
- **地域同士の交流や活動同士のつながりが少ない**
 - ・地域毎に分かれていてお互いの交流が少ない。
 - ・お祭りに新しい人は入りにくい。
 - ・どんな団体が活動しているか見えにくい。
 - ・活動同士のつながりが増えると良い。
- **3商店街が連携できていない**
 - ・3つの商店街が連携できていない。
 - ・ダイヤ街でほおずき市をするが、一部のお店だけ頑張っている。
 - ・団地と商店会が連携できるとよい。
- **地域で商売や活動をしている人たちが協働できるスペースがない**
 - ・協働できるスペースがほしい。
 - ・ものづくりを発表・展示する場が欲しい。
- **コミュニティづくりやまちづくりの活動、イベントの情報が地域に届かない**
 - ・コミュニティづくりの活動や場所などをまとめた情報がない。
 - ・今あるコミュニティ活動のPRをもっとしてほしい。
 - ・実は色々イベントをやっているが、みんな広報に苦労しており、地元の人がか来ない。

暮らし

●公共施設が老朽化している、魅力が低下している

- ・公共施設の老朽化対策は必要である。
- ・公共の建物のデザインがよくない。
- ・たくさんの公共施設がバラバラである。

●遊び場・運動施設・集える場所が少ない

- ・子ども達が遊ぶ場所や、運動施設が少ない。
- ・20~40代向けの運動施設等が少ないので立川、国分寺に行ってしまう。
- ・コミュニティ施設の利用率が高く、予約を取るのも大変なので、集える場所が欲しい。
- ・高齢者の楽しみである中学校の夏期プールの開放がなくなった。

●公園の管理や活用が十分ではない

- ・公園によって子供に利用されているところと利用されていないところがある。
- ・公園でボール遊びや花火が禁止されている。
- ・公園の地面がデコボコしているなど、管理が気になる。
- ・団地のたまご広場で魅力的なイベントが行われているが住民の方から苦情が出ることもある。

●自転車と歩行者のマナーが悪い

- ・若い女性の自転車運転は接触事故が起こりそうで怖い（保育園や幼稚園の送迎など）。
- ・若い人や子どもが横並びに歩き、道を譲ることを知らない。
- ・第七小学校のまわりにはゴミ（タバコの吸い殻など）が多い。
- ・国立富士見台団地内を通る犬の散歩などは、マナーの問題が起こっている。

●国立に働く環境が整っていない

- ・若年層、子育て世代が住むにも地域に働ける職場がない。国立に企業が増えると良い。
- ・40~50年企業の後継者がいない。若手の採用・育成方法が分からない。
- ・交通の便が良いことで、働き手が外に流出するリスクがある。

●商店街の元気がなくなりつつある、お店が減りつつある

- ・昔にぎやかだった商店街や富士見台ストアのような商店が閉まってさみしい。
- ・店主の高齢化や商店街の担い手・後継者不足で、廃業になる店舗・空き店舗が増えている。
- ・店舗の入れ替わりが激しい。
- ・生鮮三品の店がなくなり飲食店が増加すると、日中の賑わいがなくなってしまう。
- ・美味しいお総菜屋さんがない（夕方やっていない）。
- ・本屋がなくなり知識拠点がなくなった。
- ・矢川通りが衰退している。本屋、食堂、菓子店が古くなった。郊外商業店舗に流れている。
- ・矢川の商店街はオフィス化が進んでいる。大型店舗に商店は客を取られている。
- ・買い物難民が今後増えていく不安がある。
- ・矢川駅周辺に銀行や交番がない。
- ・商店街でトイレ開放しているが入りにくい面がある。
- ・商店街や広場にトイレがない。

●市職員がまちの活動を知る機会が少ない

- ・コミュニティの形成支援を行う市職員が少ない。活動の現場を行政にもっと知ってほしい。

●駐輪場や駐車場が少ない

- ・駐輪場が少なく、気軽に無料で止められる場所も少ない。

●喫煙所が少ない

●同じ地域に駅が2つある魅力が活かされていない

- ・谷保駅と矢川駅の2駅ある魅力が活かされていない。
- ・終電が早い。

(3) 魅力を伸ばし、課題を解決する取組アイデア

まちづくりの取組	ご意見
<p>公共施設の再編、及び、シビックセンターの整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者とともに、学生、若い世代、子育て世帯も積極活用したくなる公共施設の機能の確保を進める <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設の現状としては、高齢者の利用が多いと感じる。高齢者はもちろんだが、若い世代や子育て世帯にとっても魅力ある機能を公共施設の再編にあわせて誘導してほしい。 ・ 児童館にも、高齢者が集まれるような仕組みをつくり、多世代交流を図る。 ・ 学生が借りたいと思える機能や仕組みを検討する。 ・ 新しい人が入りやすい雰囲気づくりや、色々な人が使えることをPRすることも重要である。 ・ 公共施設、図書館、プールなどの機能性が低いと感じる。50年先を見据え、大きな構想力で公共施設の再編を計画することが大切である。 ● 公共施設の交流機能を強化し、人が集まりたくなる、借りやすくなる仕組みや運営体制もあわせて検討する <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設を交流の場にする新たな発想を持つ。 ・ 既存のコミュニティ施設をより開かれた場にしていきたい。 ・ 公共施設は、ただ、そこにあるだけではだめで、小さなイベントを地道に継続し、交流の拠点として活用していくことが重要である。 ・ 体育館などの公共施設の利用をきっかけに地域とつながることができるような工夫ができると良い。 ・ 若い人が運営に関われるなど、運営主体や体制の工夫もあわせて検討していくことが重要である。 ● 公共施設の再編については、様々な手法を検討する <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存ストックを活用したリノベーションで対応してほしい。 ・ 高層化ではなく、周辺の街並みとの調和を踏まえたボリュームとする。 ・ 学校の建替えにあわせて公民館機能を導入するなど、地域の交流拠点である学校施設の複合化を図るとよい。 ・ 都立スポーツセンターをもっと活用できる工夫が必要である。
<p>大規模団地の再生計画の進捗と共に取り組むまちづくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 団地の魅力的な再生のあり方を検討するとよい <ul style="list-style-type: none"> ・ エレベーターをつけて住みやすくする。 ・ リノベーションの場合、エレベーターの設置が難しいと思うので、建替えによる再生を進めるとよい。 ・ 団地好きとしては、リノベーションも再生の1つの選択肢と考えている。 ・ 今の緑豊かな環境を継承できる再生がよい。 ・ 周辺に水辺がないため、団地の再生にあわせて水辺がつくり、来訪者を増やせるとよい。 ・ 地元建築家にデザインしてもらえると面白い。 ● 団地の空室、空きスペース、緑を活用して、コミュニティ活動を盛り上げる工夫ができるとよい <ul style="list-style-type: none"> ・ UR都市機構と大学が連携し、部屋を学生に安価に貸し出せる仕組みがあるとよい。 ・ 空室を一橋大学や東京女子体育大学などの学生に貸し、シェアルームとして使ってもらい、災害時の防災の担い手になってもらえるとよい。

まちづくりの取組	ご意見
	<ul style="list-style-type: none"> • 空室を活用して、学生ベンチャーによる起業支援ができる面白い。 • アート系学生に積極的に賃貸している例が参考になる。 • 古い水回り設備を嫌がる人は多いので、そこを改善するだけでも若い人が入居するのではないか。 • 団地の空室を地域のたまり場的に活用できないか。 • 空室を多世代の助け合いが生まれる「まちの保育室」として活用できると良い。 • 団地の屋上を学校が塾、保育園にして活用できないか。 • 団地の屋上にキッチンを作る。 • 団地外の人にとって守りたい緑も、住民にとっては管理が大変という面もある。コミュニティ形成の一環として地域ぐるみで緑の管理が行えると良い。 <p>●居住者が団地の良いところをPRする仕組みや機会があると良い</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住んでいる人が団地の良さをもっとPRするとよい。 <p>●UR、市、自治会や住民、若い人など利害関係者が話し合う場をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> • ステークホルダー会議を行い、協議を進める。 • 円卓会議方式にして、住む人、つくる人、周りの人が具体的に話し合う機会をつくる。 • 若い人が団地に増えるように、お互いの理解と歩み寄りのための話し合いの場を！ <p>●都営矢川北アパートに隣接するコミュニティ施設は、多世代交流のできる施設にしてほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> • 都営矢川北アパートの建替えにあわせてできるコミュニティ施設は、単なるサービス施設ではなく、誰でも気軽に入れて、多世代が交流できるスペースや機能を確保して欲しい。 • 矢川プラスを多世代が使える場にする。
<p>緑の保全、景観形成、環境に配慮したまちづくりの推進</p>	<p>●緑の適正な維持管理や若木を植えるなど、緑の環境を育てる活動を充実させる</p> <ul style="list-style-type: none"> • 若い桜の木を早く植えたい。 • JR東日本や都、国の予算の入る企画を行う。 <p>●緑による夜間の暗がり改善</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑が多いことで、特に夜間は木陰で暗い場所がある。街灯の位置を工夫するなどして、明るさを確保する。 <p>●矢川緑地を地域連携しながら活用する</p> <ul style="list-style-type: none"> • 矢川緑地を矢川商店会と連携して活用する。 <p>●畑、水田の保全を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> • 富士見台地域のほか、市全体で減少しつつある畑や水田の保全を図る。
<p>まちづくり条例との連携による良好な街並みや用途の誘導</p>	<p>●街並みのデザインコントロールを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> • 富士見台地域にふさわしい街並みができるようなルールがあるとよい。 • ユニークな建物がもっとまちなかにあると面白い。インスタグラム映える写真が取れば話題になる。 • デザイン係をまちづくり部局に設置できないか。 <p>●賑わいの誘導が図れるような都市計画の変更を検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> • 第一団地の東側にも商業機能等が誘導できるように、用途地域の変更を検討して欲しい。

まちづくりの取組	ご意見
<p>さくら通りの再整備による歩いて楽しい歩行者ネットワークの形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●歩道のバリアフリーを進める <ul style="list-style-type: none"> ・さくら通りのほか地域内の歩道のバリアフリー整備を着実に進める。 ・大学生が多くて、歩行の妨げになっている。 ●歩行者中心のさくら通りの環境整備のさらなる充実を図る <ul style="list-style-type: none"> ・東西を横断するさくら通りを歩行者が使いやすい通りとして充実し、矢川と谷保を人が行き来するようにしたい。 ・さくら通りは小学生の通学路でもあるので、自転車と歩行者の混在を解消したい。 ・自転車道で自転車がすれ違えない状況を何とかしたい。 ・交差点で歩行者が自転車と一緒にになってしまうことを解決したい。 ・大学通りとさくら通りでは役割が違うため、その道路にあった歩行ルールを決める。 ・さくら通りに休憩できるベンチをもっと多くしたい。
<p>コミュニティや市民の活動を支える地域交流拠点の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な場所に多世代の居場所がほしい <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者も家から歩いて行ける場所に複数の居場所が必要である。 ・「シニア」だけの居場所ではなく、多世代交流の場が必要である。 ・居場所づくりに市がさらに積極的に場所、資金、人、ノウハウの支援をしてほしい。 ・空き家なども活用して、多拠点のコミュニティづくりの場のネットワークをつくっていききたい。 ・道端にイスがあるだけで井戸端会議できる小さな集える場ができる。 ・集会所にキッチンがあるとよい。 ●市民団体の立ち上げ支援制度を充実させる <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動を盛り上げるためにも、立ち上げに係る行政支援を充実してほしい。 ●大学との連携センターを地域につくる <ul style="list-style-type: none"> ・大学との包括協定の具体化の1つの取組として、一橋大学と地域の連携センターを設置するとよい。 ・「ネットワーク」は言葉だけではだめで、一橋大学等と実践的に連携できるとよい。 ●中規模なイベントができる広場がほしい <ul style="list-style-type: none"> ・中規模なイベント広場があると良い（団地内のたまご広場規模）。
<p>富士見台地域における地域包括ケアの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●買い物支援など、高齢者の生活を下支えする具体的な取組を実践する <ul style="list-style-type: none"> ・地域が東西に長いので、地域によって、特に高齢者は買い物困難者になる可能性がある。 ●多世代が集まって食事ができる場所を増やしたい <ul style="list-style-type: none"> ・空き家やお店を使って食事を通して、知り合いづくりや交流ができる場所が各地域にたくさんできると良い。 ・団地で持ち寄りのランチの会をやっているが、子どもや1人暮らしの高齢者の個食の増加に対して、集まって食事ができる場所を増やしたい。
<p>若年層・子育て世代を積極的に呼び込むまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●多世代や異文化交流ができる場を増やす <ul style="list-style-type: none"> ・多世代や異文化の人々が集まることで、様々な人や団体が知り合える ・子どもたちも大人と一緒につどえる機会が増えれば、地域を知る機会になったり、社会経験の場になる。 ●自治会・商店会・地域活動団体の活動や場をもっとPRする <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動のさらなる情報発信をお願いしたい。

まちづくりの取組	ご意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・紙やネットなど様々な媒体の活用や美容室、病院など人が集まる場所への広報設置を検討する。 ・どこかに立ち寄ったときに「ついでに知る」機会をうまく作りたい。 <p>●アクティブ・シニアをつなぎ役として活躍してもらおう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定年後の方が多く、定年したからこそ地元の良さも悪さもわかり、新鮮な目で地域を見ることができるので、このような人たちへ意見やお話を聞きに行く。
駅前新たなにぎわい創出	<p>●個々人が地元の個人商店をもっと応援する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の商店を積極的に利用して応援しよう。 ・多種多様な個人商店を残して、今の活気も継続させたい。 <p>●コミュニケーションの場として商店を使う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる買い物場だけではなく、お店をまちの人の出会いの場にする。 <p>●地域住民に求められ、喜んでもらえる店づくりを進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズを踏まえ、商店街として、夜営業の飲み屋と、昼営業の店舗のバランスを整える。 ・商店街同士が連携、役割分担、差別化しながら個性的な取組を進める。 <p>●店舗リノベーションする等して若い人が入りやすい店舗づくりをしたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅せ方が重要である。古くても素敵に魅せることで、ここで仕事をしたい人、活動をしたい人は増えるはずである。 ・一橋大学を始め多くいる学生が、入りやすいと思えるお店づくりをできると良い。 <p>●空き店舗活用をワークシェアなど、商店街を若い人が働く場として活用したい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗を活用して、若い人をワークシェアできる場をつくりたい。 <p>●商店街の後継者を見つけるためのマッチング事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出店希望者と空き店舗をマッチングするイベントを行政が行う。 ・商店街で働きたい人や学生のインターンとのマッチング事業を行う。 <p>●イベント等で商店街をPRし盛り上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はしご酒イベントをやってはどうか。 ・ワインまつりなど、テーマを絞ったイベントの開催で商店街を盛り上げる。 ・多くの人が集まるイベントを利用して商店街をPRする。 ・安価な市民の食堂として、フードコートをつくれるとよい。 <p>●商店や商店街をアピールして、若い人にも知ってもらおう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で「商店街のまちあるき」を企画してもらい、学生に商店街を知ってもらいたい。 ・インターネットでは見つからない地元のお店マップがあるとよい。 ・商店街を歩く機会を増やし、口コミで顧客を広げていくことが必要である。 <p>●若い人がチャレンジしたり、学生とコラボした取組を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆるく、安く、若い人がチャレンジできる「ゆる市」がよい。 ・学生とのコラボはまちづくりの資源となる。 ・学生と地域の人が共同で取り組む機会ができると良い。 <p>●谷保天満宮と連携したと商店街の活性化の取組を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷保天満宮と駅をつなぎ名所をつくる。谷保駅前で常設の物産を行う。 ・谷保駅を「谷保天満宮駅」にする。

まちづくりの取組	ご意見
	<ul style="list-style-type: none"> ●線路沿いでまちのPRを効果的に行う <ul style="list-style-type: none"> ・富士見台地域は、南武線が東西に走っている。これを活用して、車窓から見える位置に、国立市をPRする看板を設置するなど、効果的なPRを考えるとよい。 ・文教都市、インテリジェンスを感じる街といった国立のイメージやブランドを沿線の街を使ってもっとPRする。 ●都営矢川北アパートの建替えを契機にした活性化の取組を進める <ul style="list-style-type: none"> ・開発と連動させて、矢川メルカード商店街の活性化を図る。そのためにも、一刻も早く、都営矢川北アパートの入居開始を望みたい。
<p style="text-align: center;">その他の 取組アイデア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域をめぐるお散歩マップをつくる ●自転車の似合うまちづくりを進める <ul style="list-style-type: none"> ・サイクル都市の実現。自転車に關係する道の構造やマナーも含めて啓発する。 ・緑のコリドーとあわせた自転車ルートのネットワークづくりを進める。 ・国立駅の「スイクル」など、レンタサイクル事業をもっと推進する。 ・放置自転車のリサイクルの仕組みを確立する。 ・自転車付き賃貸物件をプロデュースすると面白い。 ●市民の身近な足となる多様なモビリティの活用を検討する <ul style="list-style-type: none"> ・かつて馬のいる農家が多かった。馬車で国立駅と谷保駅を繋ぐことで高齢者も移動しやすい。 ・東西の裏道をつなぐコミュニティバス走行実験をしたい。 ・採算性を考慮しながらも、コミュニティバスを気軽に使える料金設定を検討する（府中は100円で乗れる）。 ・自動運転のシェアカーの導入に期待したい。 ●歴史的由緒を発信する名称や地域に親しまれている愛称を大切にする <ul style="list-style-type: none"> ・施設などに名前をつけることで市民の愛着が高まる。 ・それぞれいつのまにか愛称がついているので、親しみやすいよう愛称を伝えていきたい（怪獣公園、ごりら公園、かば公園、汽車ぽっぽ公園など）。 ・第三団地を「アジサイ団地」とするなどわかりやすい名前をつける。 ・「谷保」の読みを「やほ」に戻す。かつて「野暮」につながるということで「やほ」にした経緯があるが、駅名を「谷保天満宮（やほてんまんぐう）」とするなどの取組を進めたい。 ・この地域ならではの国分街道、府中街道、江戸街道などの歴史の道の名前を復活させたい。 ●仕事づくり、職づくりの取組を大事にし、積極的に進める <ul style="list-style-type: none"> ・市内に職が充実すれば、職住近接の若い人も増える。 ・国立の企業の協力を得て、で職や働き方、雇用や育成について相談する場所を設ける。 ・国立市の基本構想や計画に「職づくり」を位置づけ、市民みんなで考える機会をつくる。 ・国立市の南部エリアに企業を誘致する。 ●文化・芸術活動を地域で応援する <ul style="list-style-type: none"> ・芸術作品創作や展示場所を積極的に提供する。 ・商店街の空き店舗でシェア工房や、大規模空地を活用した展示など、今ある資源を活用して文化・芸術活動を応援する。 ●東西に長い富士見台地域の一体感を生み出す仕掛けを工夫する

まちづくりの取組	ご意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・東西の人のながれを生み出す。 ・東西に細長いエリアの一体感を生み出すイベントを開催する。 ・中高生から高齢者までみんなが楽しめるイベントにする。 <p>●イベントを通じた人のつながりづくり、まちの活性化に力を入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントが多い地域なので、イベントを通じて人のつながりをもっとつくる仕掛けを考える。 ・小さなイベントも大切しながら、天下市、一橋祭、市民祭などのイベントをまとめて「くにたち祭」として開催することで、地域間・活動団体間ネットワークを強化する。 ・多摩川沿いで年一回のまと火をもっと宣伝して広めよう。 <p>●あいさつなどを通じて、身近な範囲で顔の見える関係をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣近所など身近な範囲の顔見知りを増やせば、防災にもつながる。 ・あいさつをする機会が増えれば、顔見知りが増えて、まちの情報も伝わりやすくなる。 <p>●地域の人・活動がつながる場や機会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動する人同士をつなぐ、語りばの会を開催する。 ・大きなネットワークと小さいネットワークがつながると良い。 <p>●既存コミュニティに新しい人が関わりやすい工夫をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい人が入りやすい雰囲気づくりが大切である。 ・地域活動に入ってこない民営団地の方と一緒にやることを増やす。 ・一緒にできることを一緒に探す。楽しいことが大事！ ・分断されているコミュニティをつなげるイベントを行う（例えば、南北縦断流しそうめん）。 ・ゴミ拾いの場には、小2～80代まで集まる。ゴミ拾いをしながら交流が生まれる。このような場をコミュニティづくりに活用してほしい。 <p>●参加しやすいテーマ型のコミュニティや活動を多様化させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ型で参加できるコミュニティが多様にあること、選べることが大事である。 <p>●コミュニティの場の運営に若い人が関われる機会を増やしていきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人が運営に回れる機会が増やす。 <p>●大学と連携した活動をもっと増やしたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京女子体育大生も参加できる地域のスポーツイベントみたいなものをやってほしい。 <p>●地域の生活を下支えする地縁コミュニティの充実を大切にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地縁コミュニティの強さも大事！本当は隣の人とあいさつすることが一番大事です。 ・自治会や町会に愛称を付けたり、呼びやすい名前を変えてみる。 ・引っ越して来たら自治会に誘う仕組みをつくる。 ・転入者に自治会、民生委員活動等を説明する機会を設ける。 ・自治会を知らない人が活動内容や加入方法などについて気軽に相談できる体制を整える。 <p>●住民が公園をフル活用する体制・仕組みづくりを進めたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園を大切にしたいと思える活動を子どもと一緒に行うことで、公園を大切にしたい心を養い、マナーを教える。 ・花火大会はマナーとやり方教室も含める。 ・公園に子どもがもっと集うように近隣住民と一緒に考える仕組みをつくりたい。

まちづくりの取組	ご意見
	<ul style="list-style-type: none"> • 公園が使われていないから、安易に遊具や健康器具を置いてしまうのではなく、近隣利用者と使い方を話し合うことが重要である。 • 子ども家庭支援センターと連携して公園を使う。 • エビ・カニ体操など、子どもが楽しめる体操を行うなど、公園をもっと活用してもらえるよう工夫しよう。 • 自主管理花壇など、高齢者がつどい、健康づくりや医療ともつながるような活用の仕組みを考えたい。 • 使われていない公園は他の使い方を検討することも必要である。 <p>● 住政策やまちづくりが効果的に行われる市の体制づくりを検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地域住民の状況をしっかり把握して、ニーズにあった住政策を講じることができる市の体制を構築する。 • 市職員がまちに出ることを推進する施策をつくる。 • 行政と住民のコミュニケーションの機会を増やす。 <p>● 市と市民の効果的な役割分担をそれぞれが共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> • 行政はなるべく関与しないで済むようなまちづくりの仕組み作りが必要である。 • 市民が当事者意識を持って取り組めるような仕組みが必要である。 • 自分たちのことを自分たちで何とかするというように、住民が腹をくくっていくことは大事だと思う。 • コミュニティのつながりづくりは、市と住民で分担して進める。 • 実行は市民、アイデア・アドバイスは市といった役割分担の明確化が必要である。 <p>● ビジョンの実現に向けた実効性のある計画や取組を検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> • 富士見台一～四丁目の個々の地域の特性に応じた取組と地域全体を横串して刺した横断的な取組の両方が必要である。 • 富士見台地域を単にひとくくりにしない。例えば、富士見台一～四丁目は、それぞれで特性が異なり、ひとくくりににはできない。もっと小さな範囲で計画をつくるとよい。 • 高齢者の立場を考えると、10年以内の短期施策も必要である。 • 目的達成のためには予算確保が何よりも重要である。 • 富士見台地域の住民が共有できる「まちづくり憲章」があるとよい。 <p>● ビジョンの実現に向けた検討の場づくりや体制づくりを検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジョンが絵に描いた餅にならないためにも、今回の懇談会だけで終わらせず、今後も住民がしっかりと関わり、市と共に具体化していける場が必要である。 • ワークショップで終わるのではなく、今後の継続的な参加のプロセスの確保や検討状況の開示、予算の確保などが大切である。 • 現場に出て、具体的なテーマをもって、みんなでアイデアを出し合える機会があるとよい。 • 懇談会の参加者は、地域に根づいて生活・活動されており、国立市への「愛」がある人たちである。まちづくりはこういう市民・団体に支えられる。こういった機会では、単に話すだけではなく、「縁」を次につなげるひと工夫があるとよい。

4. 「国立市富士見台地域まちづくりビジョン(案)」に対する

パブリックコメント実施報告

1. 実施概要

【募集期間】2017(平成29)年10月5日(木)～10月26日(木) <22日間>

【件数】34件・12名(メール6件、FAX4件、その他2件)

〒186-8501 富士見台2-47-1 問い合わせ

平成29年(2017年)10月5日(2)

「国立市富士見台地域まちづくりビジョン(案)」に対するご意見を募集します

超高齢社会・人口減少社会の到来を前に、国立市の市制施行から50周年を迎えるにあたり、市民生活の向上を図るため、富士見台地区のまちづくりビジョン(案)を作成しました。このビジョン(案)について、市民の皆さまのご意見を募集いたします。

提出方法(ご意見の内容を簡潔にまとめた様式で、住所、氏名、連絡先を明記の上、郵送、FAX、メールまたは直接(ご提出ください。)

提出先 〒186-8501 富士見台2-47-1 国立市富士見台地区まちづくり推進委員会(〒186-8501 富士見台2-47-1)

提出先 〒186-8501 富士見台2-47-1 国立市富士見台地区まちづくり推進委員会(〒186-8501 富士見台2-47-1)

提出先 〒186-8501 富士見台2-47-1 国立市富士見台地区まちづくり推進委員会(〒186-8501 富士見台2-47-1)

「ボッチャ」体験会 参加者募集

ボッチャの正式名称は「ボッチャ」です。ボッチャとは、ボールを打ち、ゴールを打つという、誰でも楽しめるスポーツです。ボッチャは、ボールを打ち、ゴールを打つという、誰でも楽しめるスポーツです。

日程	時間	場所
10月11日(木)	午後3時30分～5時30分	第二体育室(2階)
10月14日(日)	午後6時30分～8時30分	第三体育室
10月21日(日)	午後6時30分～8時30分	第三体育室
10月25日(木)	午後3時30分～5時30分	第二体育室(2階)

※場所はいつでも市民総合体育館(富士見台2-48-1)

テレホンサービスをご利用ください

平日の日中に市役所にお越しになれない方のために、あらかじめ電話でお申し込みいただくことで、夜間や土・日曜日に市民生活課のスタッフが受付対応いたします。

利用方法: 市民生活課(〒186-8501 富士見台2-47-1)へお電話ください。

受付時間: 平日午後5時～翌朝5時(土・日曜日も同様)。

※お電話の際は、お申し込みの住所を必ずお伝えください。

市立第三小学校で防災訓練を実施します

内容は、三小校で初級防災、応急処置、避難訓練、防災ゲーム、防災クイズ、防災歌合戦、防災ダンス、防災運動会、防災ゲーム、防災クイズ、防災歌合戦、防災ダンス、防災運動会。

日時: 10月31日(火)午後1時～3時(予定)

場所: 市立第三小学校(〒186-8501 富士見台2-48-1)

収入がある方へ 課税や返還等の案内

市では、地方税法に基づき、各世帯の所得や資産の状況に基づいて、住民税や固定資産税、市税等を課税いたします。

また、収入がある方へは、住民税の返還や、所得割の控除等があります。

詳しくは、市民生活課(〒186-8501 富士見台2-47-1)までお問い合わせください。

平成28年度決算に関する市民説明会開催

市では、前年度決算の概況や、平成28年度予算案の概要について、市民の皆さまにご説明いたします。

日時: 10月31日(火)午後7時～9時(予定)

場所: 市民生活課(〒186-8501 富士見台2-47-1)

【出典】市報くにたち 2017(平成29)年10月5日号

2. 「国立市富士見台地域まちづくりビジョン(案)」に対する

パブリックコメントの要旨と市の考え方

No.	寄せられたご意見等の要旨	市の考え方
(公共施設の再編及びシビックセンターの整備について)		
No.1	<p>・公共施設の再編について、維持費もかかるため、余計な施設は不要だと思う。再編する施設には、再生エネルギーの活用で維持費のコストダウンを実現して欲しい。また、図書館の再整備の際には、教育への意識の高い子育て世代を呼び込むことができる品質の施設にして欲しい。</p>	<p>政策として環境問題の観点及び自治体経営の観点から、省エネルギーや自然エネルギー等再生可能エネルギーの活用は非常に重要な観点であると認識しています。</p> <p>『富士見台地域まちづくりビジョン(案)』の5章 まちづくりの取組(P21)の一つとして「▶緑や農の保全、景観形成、環境に配慮したまちづくりの推進」の中でも再生可能エネルギーに関して記述しています。</p> <p>また『国立市総合基本計画 第1次基本計画(平成28年度)』のIV重点項目(P65)の中で「次世代の育成」を挙げ、子育て世代が住みたい、住み続けたいと思える都市となるため、教育水準の向上や教育環境の充実を図ることの重要度を示しています。図書館に関するご意見についても、今後、公共施設の再編の計画を検討する際に参考にしていきたいと考えています。</p>
No.2	<p>・シビックセンターとして公共施設集約をして欲しい。地域にあるスーパーと連携した生活物資の提供システム、グループで開業医のクリニックがサポートできる体制整備をして欲しい。国立の夜間診療所、歯科診療所はシビックセンターへ集約して欲しい。</p>	<p>国立市は、公共施設の今後のあり方について『国立市公共施設等のあり方に関する研究報告書(平成24年度)』、『国立市公共施設保全計画(平成27年度)』、『国立市公共施設白書改訂版(平成27年度)』、『国立市公共施設等総合管理計画(平成28年度)』等で考察し、現在『(仮称)国立市公共施設再編計画』の策定に向けて検討を進めています。これらの計画に基づき、シビックセンターの機能においても、多様な人々が暮らし続ける魅力あるまちづくりのために、ストックマネジメントの観点も踏まえて、公共施設の再編を行い、市の中心部に相応しい、高齢・しょうがい・児童福祉、保健・医療等の機能集約等を検討していきたいと考えています。</p>
No.3	<p>・団地再生や公共施設再編の工程を踏まえて、この事業のタイムスケジュールを掲示して欲しい。</p>	<p>富士見台地域のまちづくりにおいては、平成27年度に富士見台地域のまちづくりに対する市民の機運醸成のため、国立富士見台団地創立50周年と関連づけ「過去・現在・未来を通じて富士見台地域の100年を考える」と題して富士見台地域のまちづくり勉強会(まち歩き)を開催しました。その後、平成28年度に『国立市富士見台地域まちづくりビジョン(市内原案)』を作成し、平成29年度『国立市富士見台地域まちづくりビジョン』の策定を目指しております。ビジョンに基づく今後の事業の具体的なスケジュールにつきましては、今後の検討課題となっておりますので、引き続き協議を進めてまいります。</p>

No.	寄せられたご意見等の要旨	市の考え方
【大規模団地の再生計画の進捗と共に取り組むまちづくりの推進について】		
No.4	<p>・UR賃貸住宅の団地再生は急務だと思う。5階建てのエレベーターなしの住棟では、子育て世代及び高齢者にも住みにくい。空き家が増え治安の悪化にもつながる。団地再整備は住まわれている方にとって負担かもしれないが、街の魅力を高めるため再整備は必要不可欠だと思う。整備事業で生じる土地を公園化または住宅化して、人口増等につなげて欲しい。</p>	<p>政策として若年層の流入については、非常に重要な視点であると認識しています。『国立市総合基本計画第5期基本構想(平成28年度)』のIV政策の視点(P29)の中で、「次世代の育成」の重要性を示しています。今まで以上に「次世代育成」をまちづくりの核として、関係者と協議のうえ、魅力的なまちづくりの実現を目指していきたいと考えています。</p> <p>独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)は、UR賃貸住宅ストックを国民共有の貴重な財産として再生・再編するための方向性を示した「UR賃貸住宅ストック再生・再編方針」を平成19年に策定しています。その中で、国立富士見台団地は団地再生に位置づけられています。</p> <p>国立市は、『富士見台地域まちづくりビジョン(案)』の5章、まちづくりの取組(P21)の一つとして「▶大規模団地の再生計画の進捗と共に取り組むまちづくりの推進」の中で、大規模団地の再生計画・再生事業と共に富士見台地域のまちづくりに取り組むことを示し、まちづくりにおいて重要な要素と認識しております。</p> <p>そして、まちづくりの取組(P21)のもう一つ「▶公共施設の再編、及び、シビックセンターの整備」の中で示すように、持続可能な財政・施設運営の観点から、運営コストや体制の効率化、魅力あるサービスの提供等を図るために官民連携の視点も考慮し、民間事業者等との連携についても、検討していきたいと考えています。</p>
No.5	<p>・富士見台地域の発展のため、国立富士見台団地を建替え、高層化による若年層の受入をして欲しい。</p>	
No.6	<p>・「少子高齢化」の対応策として、富士見台地域に若年層の流入を目的に分譲住宅を一定規模導入すべき。この地域の再開発は、国立駅周辺と南部地域の活性化の後押しとなる。行政主導で民間活力を導入し、高度利用による再開発を行って欲しい。</p>	
No.7	<p>・富士見台地域の未来は、団地再生の実現にかかっていると思う。ビジョン実現に向けて是非UR都市機構と連携しながら、大胆な発想で事業を進めて欲しい。ビジョンにあるコミュニティインフラが展開し、富士見台地域が豊かな生活への発信地になって欲しい。</p>	
No.8	<p>・民間事業者の開発行為に対してインセンティブを導入して欲しい。</p>	

No.	寄せられたご意見等の要旨	市の考え方
【緑や農の保全、景観形成、環境に配慮したまちづくりの推進について】		
No.9	<p>・市内全域と富士見台地域の緑被率を比べ、緑の保全育成について数値目標を立てて欲しい。</p>	<p>現行の『国立市緑の基本計画(平成14年度)』は平成34年度までの20年計画として策定されました。当時の緑被率(平成14年度調査結果)は、市域全域で26.0%、富士見台地域が23.4%となっています。富士見台地域の緑被の分布構成は、樹木被覆地が最も大きく、その中でも大きな面積を占める場所は富士見台団地です。団地建設以前の富士見台地域は、広大な農地が広がり、立川崖線の樹林地も残されていましたが、市街地が整備されていくに従って、農地や樹林地が減少していきました。それは緑被率を低下させることに直結していますので、その経過から考えれば、今後、さらに市街化が進んでいく限り、緑被率を向上させること自体が困難であることはご理解いただけると思います。</p> <p>しかし、現行計画策定から十数年が経過していますが、富士見台地域において、今も緑被の最大面積を占めるのは、富士見台団地であると考えられます。現行計画においても富士見台団地は、市内における緑の拠点となる地区として位置付けており、国立市にとって重要な緑ですので、今後も継続して量的に保全していく必要があります。また、同時に質の向上も必要だと考えています。現行計画では、生物の生息場所や移動通路となるようにするとともに自然環境及び住環境の向上を目指しています。</p> <p>上記を踏まえ、数年後に計画の改定時期を迎えるに当たり、富士見台地域に限らず、市内の現在の緑をできる限り量的に保全するとともに、市街化によって緑を損失したときは、それに見合った新たな緑を創出(例えば、地域由来の種子による植物を使用し、生物多様性を維持すること等)させ、質の向上を目指すこと等について、数値化を含めた具体的な目標や手段が設定できないか検討していきたいと考えています。</p>
No.10	<p>・今ある公園や緑地の緑の維持管理を徹底し、自然な木陰ができるような緑の保全をして欲しい。</p>	<p>国立市は、『国立市緑の基本計画(平成14年度)』を策定し、その中で、①重要な緑地の確保、②緑被率の向上、③公園緑地の確保を念頭に緑化重点地区を設定しています。さくら通りや市役所一帯、集合住宅(国立富士見台団地、都営矢川北アパート)等は、対象緑地としています。</p> <p>また、『富士見台地域まちづくりビジョン(案)』の5章(F21)まちづくりの取組の一つとして「緑や農の保全、景観形成、環境に配慮したまちづくりの推進」を示しています。公園・緑地の緑の維持管理を一層徹底し、自然な緑陰を提供できるよう努力していきたいと考えています。</p>

No.	寄せられたご意見等の要旨	市の考え方
【まちづくり条例との連携による良好な街並みや用途の誘導について】		
No.11	・住宅が多く、産業が少ない国立市が発展していくためには、さくら通りを中心に地域を魅力的にする必要がある。生活者や来訪者の生活利便性向上のため、さくら通り延伸部分の都市計画上の用途地域の変更を検討して欲しい。	<p>都市計画上の用途地域は、局地的・相隣的な土地利用の調整といった観点にとどまらず、市全体にわたる都市機能の配置及び誘導を図るため、その将来像にあったものとすべき必要があります。また、用途地域を見直す際には、道路の整備状況、土地利用の動向、幹線道路と沿道の土地利用との調和、円滑な道路交通等の確保等を勘案し検討する必要があります。</p> <p>当該地域の都市計画道路沿道地域以外の地域においては、現在『国立市南部地域整備基本計画(平成26年度)』で計画する低層住宅地として緑化を促進し、美しい街並みの形成を目標としています。そして現在は、この目標の実現のため、狭あい道路の整備や行き止まり道路の解消などに取り組むべきテーマとして位置づけています。</p> <p>なお、都市計画道路3・4・5号線の当該地付近は、現在東京都で事業が進められており、市において、その沿道について都市計画上の用途地域等の見直しを検討しています。</p>
No.12	・富士見台一丁目内において、現状の都市計画上の用途地域を変更し、店舗(コンビニ、スーパー等)を誘致できるようにしたり、日当たり、プライバシー、高さや建蔽率等の面においても、他の地域との地域格差をなくして欲しい。	<p>なお、都市計画道路3・4・5号線の当該地付近は、現在東京都で事業が進められており、市において、その沿道について都市計画上の用途地域等の見直しを検討しています。</p>
【さくら通りの再整備による歩いて楽しい歩行者ネットワークの形成について】		
No.13	・さくら通りの無電柱化を進め、市内の無電柱化計画を策定して欲しい。	<p>東京都は、東京都無電柱化推進計画(第7期)に整備路線として都市計画道路3・4・10外2路線を予定しており、現在、国立駅の駅前周辺整備事業において「都市計画道路3・4・10号線」等について無電柱化を進めています。</p> <p>また無電柱化の推進にあたっては、利用者の多い駅前道路など周辺の歩道を拡幅し、バリアフリー化と一体的な整備に合わせるなど、安全で快適な歩行空間の確保を第一に考え今後努力していきたいと考えています。</p>
No.14	・市内の自転車専用路の整備計画を策定して欲しい。また、通学時間帯同様に、主婦の買い物時間帯の自動車通行の禁止路線を指定して欲しい。	<p>国立市は、『国立市地域交通計画(平成25年度)』第3章、地域交通ビジョン 3-3 地域交通の基本方針(P49)として、V.自転車を安全で便利に使える地域交通を挙げています。コンパクトでほぼ平坦な市域という国立市の特徴を生かし、また、環境負荷の低減のため、自転車を安全で便利に利用できる地域交通の実現を目指しています。</p> <p>また、自転車ネットワークの整備として、平成24年11月に国土交通省道路局・警察庁交通局が策定した「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」にも位置づけられている自転車ネットワーク計画を策定し、市内全域(ネットワークに位置づける主な道路は、大学通り、さくら通り、学園通り、北大通り、旭通り、富士見通り)を対象に自転車通行空間ネットワークを整備するとともに、各路線の自転車通行空間の整備方針を明確にすることを考えます。</p>
No.15	・富士見台地域と谷保地域を結ぶ自転車道の整備をして欲しい。	<p>また、自転車ネットワークの整備として、平成24年11月に国土交通省道路局・警察庁交通局が策定した「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」にも位置づけられている自転車ネットワーク計画を策定し、市内全域(ネットワークに位置づける主な道路は、大学通り、さくら通り、学園通り、北大通り、旭通り、富士見通り)を対象に自転車通行空間ネットワークを整備するとともに、各路線の自転車通行空間の整備方針を明確にすることを考えます。</p>

No.	寄せられたご意見等の要旨	市の考え方
【さくら通りの再整備による歩いて楽しい歩行者ネットワークの形成について】		
No.16	・さくら通りに多方面(北府中駅経由の府中行きや矢川駅行き、東京都救急医療センター経由西国分寺行きなど)に向かう路線バスを積極的に誘致して欲しい。	『国立市地域交通計画(平成25年度)』において、国立駅をはじめとする駅及び駅周辺地域へのアクセスや公共施設アクセスそれぞれに便利な運行を検討しており、平成26年4月に開始したコミュニティワゴン試行運行(矢川・車ルート)において、矢川周辺と多摩蘭坂などを結ぶ運行を行いました。しかし、利用者数が目標値に達せず平成29年3月末に運行を休止した経過があります。以上の経過もあり路線化は難しい状況ではありますが、引き続きご意見のありました、さくら通りから交通不便地域を含む、多方面へ向かえるような経路について、路線バス各社が採算を見込めるルートを提案できないか検討させていただきたいと思っております。
No.17	・さくら通りが開通した際に、路線バスの停留所の設置など、現在の公共交通不便地域の改善をして欲しい。	
No.18	さくら通りに関しては、歩道と自転車道が整備されれば、これ以上の追加工事は不要。むしろ、他の道路について、ベビーカーや高齢者に配慮した、路面整備をして欲しい。道幅がある程度あることを活用して、緑の維持管理をしながら、路面の整備及びLED照明等による明るい道路として整備して欲しい。	『富士見台地域まちづくりビジョン(案)』の5章、まちづくりの取組(P22)の一つとして「さくら通りの再整備による歩いて楽しい歩行者ネットワークの形成」を示しています。さくら通りの再整備により、自動車優先の道路ではなく、「歩行者」「自転車」「自動車」それぞれが安心安全に通行でき、散歩やウォーキングなどの健康づくり、買い物などをゆったりと楽しむ人々に配慮したゆとりの感じられる道づくりを目指します。なお、平成31年度を目途に市内の街路灯は、LEDにするなど省電力化を行っているところです。
No.19	・さくら通りにベンチを設置し、情報交換の場(看板、ピラを置く場、時には青空相談室)として、高齢者、子育て世代、若者たちが情報が得られるような場として活用して欲しい。	国立市では、『国立市地域交通計画(平成25年度)』を策定しています。4章 アクションプランにおいて、4-1-2(P51)散策等休憩空間の整備を挙げています。歩道幅員が十分に確保されている箇所を中心に、歩道の植栽帯を利用し散策時の休憩に役立つベンチの設置を検討することとしています。さくら通りについては、歩道幅員の確保が難しい部分がございますが、今後の検討課題とさせていただきます。
No.20	・さくら通りの整備によって歩道と自転車道が分離され歩道が狭くなり、車椅子等の利用者にとって、不便となった。しょうがいしゃも含めた誰もが、心理面・環境面で、つながっていけるようなまちづくりをして欲しい。	これまで、さくら通りは市民の方や利用者の方々から親しまれ利用されてきた道でありましたが、道路の老朽化により全面改修工事を実施することとなりました。そこで、さくら通りの整備は道路空間を形成する上で、高齢者・しょうがいしゃをはじめ全ての利用者のニーズに合った、より質の高い歩行空間の形成が必要と考えバリアフリー化の整備を行なってきています。バリアフリー化を進める上での歩行空間は、有効幅員2.0m以上を確保しており快適に利用できるよう整備を進めています。今後、整備が実施された以降においても、利用する皆様の視点から不足していると感じることがあれば、その不足を補うための検討を継続的に行なっていくことが重要であると考えています。

No.	寄せられたご意見等の要旨	市の考え方
【富士見台地域における地域包括ケアの推進について】		
No.21	<p>・高齢者が近場で集えて顔見知りになり、声掛けができる関係を築けるような仕組みを、空き家を活用して作って欲しい。企画によっては、多世代が利用できる、交流の幅が広がる可能性がある。また、地域の力を借りながらみんなが集え食事ができる場所として欲しい。</p>	<p>『富士見台地域まちづくりビジョン(案)』の4章、まちの将来像とまちづくりの方針(P18)の中では「コミュニティインフラ(地域に暮らす多様な世代の生活、交流を支え、暮らしの魅力を高めるハード・ソフトの生活基盤)の創造・展開へ」を示し、コミュニティインフラの重要性を示しています。</p> <p>国立市は富士見台地域において、コミュニティインフラが充実することで、人がつどい、魅力ある暮らしの物語が生まれる環境が創造され则认为ました。そして、その物語は、人を通じて、他のエリアへ展開していき、新たな暮らしの物語が生まれる好循環が生まれると考えており、その第一歩を富士見台地域から創造・発展できればと考えています。コミュニティインフラの充実を図る方法の一例として、地権者との調整が必要ですが、空き家の活用も有効と考えます。また、この地域で既に展開されている住民同士の支え合い活動やNPO等による居場所づくりを、さらに発展させたり、組み合わせることで、地域包括ケアシステムの表現を目指していきたいと考えています。</p>
【駅前新たなにぎわい創出について】		
No.22	<p>・谷保駅、矢川駅の魅力が低い。「人が住み着く街」にするため駅前の整備は重要である。JRとコラボレーションし魅力強化を図って欲しい。</p>	<p>国立市は『国立市南部地域整備基本計画(平成26年度)』を策定し、その中の南部地域の将来像実現に向けた主な施策と地域別取組テーマ(P7)の中で、JR南武線の連続立体交差事業の推進を都市基盤の整備として、挙げています。</p> <p>また、都市基盤の整備に関する市街地整備計画として、谷保駅南整備地区(P31)と矢川駅南整備地区(P33)を位置づけ、将来における市の財政負担や関係市民の負担を考慮するとともに、鉄道事業者との協議など事業化に向けた研究・検討を進める考えています。</p>
【駅前新たなにぎわい創出について】		
No.23	<p>・国立は東京都内でも他にない魅力を持っている。しかし、その魅力が市外からは分かりにくい。効果的な魅力発信に取り組んで欲しい。</p>	<p>まちの魅力発信については、非常に重要な視点であると認識しております。『国立市総合基本計画 第5期基本構想(平成28年度)』のIV政策の視点(P30)の中でも、「国立ブランドの向上」の重要性を示しています。市全体の話ではありますが、国立には、緑あふれる景観や自然と共に、個性的な店舗やまち全体に広がる文化・芸術の気風、歴史の中で培われてきた住民意識など、多面的な魅力があると考えています。魅力の捉え方は様々ですが、まちにとっての「ブランド」とは、このような多面的な魅力のすべてが折り重なって出来上がる、まちとしての価値であると考えます。</p> <p>活力あるまちとして持続的に発展していくためには、この「ブランド」を守り育ていくとともに、効果的に市外へ発信していくことが重要であると考えています。</p>

No.	寄せられたご意見等の要旨	市の考え方
【市民の知恵・アイデア・ノウハウをまちづくりの実践につなげる検討の場づくり】		
No.24	・第三団地南側の調整池を池として子どもたちの遊び場とするなど有効活用して欲しい。	<p>貴重なアイデア及びご意見をいただきありがとうございます。このような様々なまちづくりのアイデア実現に向けて、住民、地域団体、事業者、市等がそれぞれの得意分野を活かし、連携・協働して実践していくことが重要と考えます。今後も、多様な市民が集まり、交流し、まちづくりを語り合い、実践につなげる場や機会を継続的に設けていきたいと考えています。</p>
No.25	・谷保駅前に高速バス路線の停留所を設け「バスタ谷保」とし、谷保天満宮の集客力を活用し、谷保駅周辺の活性化に力を入れて欲しい。	
No.26	・共働き家庭が増加するなかで、週末子育て世代は疲れていて運営側にまわるのは難しいと思う。子育てが一段落した世代や結婚前の社会人世代が運営側にまわってくれるようなコミュニティのしくみを作りたい。また、国立市のアプリを作成し、気軽に情報収集できるようにして、運営への参加を促すしくみを作りたい。	
No.27	・駅前の空いたテナントを、学生やいろいろな活動団体が、安く利用できるようにして欲しい。その施設利用案内について「くっこアプリ」などを作成し、継続的な情報発信をして欲しい。	
No.28	・大学通りで開催される市民祭と同様にさくら通りを歩行者天国にし、さくら祭を開催して欲しい。	
No.29	・公園は、老朽化した遊具は最低限とし、レジャーシートを広げることができるようなのびのび過ごせる公園にして再整備して欲しい。また、鉄道の魅力を引き出すため、谷保第四公園と谷保第三団地を一体的に整備し、電車の見える公園として再整備して欲しい。	
No.30	・地域でいつ、どのようなイベントが行われているのか案内するため、人が行き交う場所に情報案内板(デジタル)を設置して欲しい。設置場所については、市民アンケート(紙媒体及び電子ツール)でとり決めて欲しい。	

No.	寄せられたご意見等の要旨	市の考え方
【市民の知恵・アイデア・ノウハウをまちづくりの実践につなげる検討の場づくり】		
No.31	・ビジョンのまちづくりの取組みの中で「市民の知恵・アイデア・ノウハウをまちづくりの実践につなげる検討の場づくり」の項目を導入したのは評価する。	国立市は、富士見台地域のまちづくりにおいては、平成27年度に富士見台地域のまちづくりに対する市民の機運醸成のため、国立富士見台団地創立50周年と関連づけ「過去・現在・未来を通じて富士見台地域の100年を考える」と題して市民参加型の富士見台地域のまちづくり勉強会(まち歩き)を開催しました。その後、平成28年度に『国立市富士見台地域まちづくりビジョン(庁内原案)』を作成し、これに対して平成28年12月から関係者に意見を聞いてきました。また、平成29年6月には多くの市民の方からご意見をいただくため「国立市富士見台地域まちづくりビジョン(案)に関する懇談会」を開催しました。2日間で約100名の市民の方にご参加いただき、この懇談会の中でも、継続的な市民参加機会に対するニーズが多く上げられました。市はこれまで、数々の市民参加の機会を設け、市民参加によるまちづくりを進めてまいりましたが、今後も富士見台地域のまちづくりに対する機運の高まりを将来のまちづくりにつなげていきたいと考えています。
No.32	・この事業の検討にあたり、分科会を設けるなど検討体制を構築して欲しい。	「富士見台地域まちづくりビジョン(案)」の4章.まちの将来像とまちづくりの方針(P23)の中で「市民の知恵・アイデア・ノウハウをまちづくりの実践につなげる検討の場づくり」に示すとおり、国立市としては、様々なまちづくりのアイデア実現に向けて、住民、地域団体、事業者、市等がそれぞれの得意分野を活かし、連携・協働して実践していくことが重要と考えています。今後も、多様な市民が集まり、交流し、まちづくりを語り合い、実践につなげる場や機会を継続的に設けていきたいと考えています。
No.33	・ビジョン策定において、一方的な報告をするのではなく、策定過程も含めて市民と共有をして欲しい。	
【ビジョン全体について】		
No.34	・どの部分がビジョンなのか分かりにくい。	このビジョンは、既にあるまちの魅力を活かしながら、さらに伸ばす中で、同時に課題の解決も図っていく「魅力発見・創造型」のビジョンです。 富士見台地域に既にある魅力を地域住民、地域団体、事業者等まちづくりに関わる関係者で共有し、それぞれの役割を踏まえながら、市との協働・連携により、ビジョンで掲げているまちの将来像「人が主役、多彩な暮らしが重奏するまち富士見台《コミュニティインフラの創造・展開へ》誰もが、生き活きと交流し、互いに支え合い、彩り豊かな暮らしを安心・安全・快適に楽しみつづけられるまち」を実現するための羅針盤としての役割を期待しています。上記の視点を踏まえて「国立市富士見台地域まちづくりビジョン(案)」をご確認いただければと考えます。



国立市富士見台地域まちづくりビジョン

2018年(平成30)年2月

国立市 都市整備部 富士見台地域まちづくり担当

住所 ◆ 〒186-8501 国立市富士見台 2-47-1

電話 ◆ 042-576-2111 (内線)382・383

FAX ◆ 042-576-0264

Eメール ◆ sec_fuji@city.kunitachi.lg.jp

ホームページURL ◆ <http://www.city.kunitachi.tokyo.jp/>

編集協力 ◆ 株式会社 石塚計画デザイン事務所